

最終報告書

令和 2 年度 COVID-19 によるグローバル・フードバリューチェーンへの 影響分析調査業務（東南アジア・南アジア等）

ベトナム

株式会社野村総合研究所

コンサルティング事業本部 ICTメディア・サービスコンサルティング部

2021年3月18日



本事業の背景と目的

■ 背景

- 日本国内の食市場は人口減少と高齢化に伴い縮小していくことが予想される中、世界の飲食市場の規模は890 兆円（2015 年）から1,360 兆円（2030 年）に約1.5倍に成長すると予測（農林水産政策研究所推計）されており、我が国の食産業が継続的に発展していくためには、国内需要だけでなく海外需要を獲得していくことが必要となってきた。
- このため、農林水産省では、海外展開に取り組む企業・団体等からなる「グローバル・フードバリューチェーン（以下GFVC）推進官民協議会」を平成26 年 6 月に設置。更に、食産業の海外展開をより一層戦略的に推進するため、令和元年12 月に今後 5 年間の取組方針である「GFVC 構築推進プラン」を策定し、①各国・地域ごとの企業進出等を踏まえた企業支援の重点化、②複数企業が連携した海外展開の推進（企業コンソーシアム形成）、③地方企業の進出促進、④輸出と投資の一体的促進、⑤スマート農業技術の海外展開を推進していくこととした。
- このような中、今般のCOVID-19 の世界的な感染拡大により人やモノの移動が大きく制限された。世界的に経済活動が停滞し、東南アジア、南アジアの各国のFVCも大きな影響を受け混乱が生じている。特に、ASEAN諸国の中でも日本企業の進出が著しく増加し日本とのつながりが深化するタイとベトナム、及び13億人超と人口の多い農業大国であり今後日本にも影響を与える可能性が大きいインドの3か国にて発生したCOVID-19による変化、影響は注目すべき事項であり、本事業の調査対象としている。
- その一方、COVID-19 により顕在化した課題に対処するため、世界的なFVC の再構築が今後行われていくことが予想され、FVC 再構築の中で、他国企業に市場を占有される前に、FVC 再構築の中で、我が国の技術・ノウハウの導入を推進し食産業の海外展開を維持・拡大していくことが重要である。

■ 目的と実施事項

- フードバリューチェーン（以下FVC）再構築における日系企業の海外展開を推進する施策のための検討材料を提供することを目的として実施した。
 - 本事業では東南アジア、南アジアの実態調査を行った。
- COVID-19の影響を踏まえたフードバリューチェーン（以下FVC)の変化に着目し、調査対象国におけるCOVID-19を受けた将来動向の見通しの変化、課題、改善に向けた様々な施策・取り組みに関する定量的なデータや事例を幅広く収集した。

本書の構成および報告内容

章立て	アプローチ	報告内容
1. はじめに	■ 本調査のねらい、対象国を記載	-
2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し	■ COVID-19を受けた現地の食市場の動向および今後の見通しを整理・分析 ■ 現地政府機関やシンクタンク等が公表している各種定量データや将来予測データと共に、各種レポート・現地報道資料を収集・整理	生産量/消費量/輸出入量の推移とCOVIDの影響を把握し、影響があった品目を特定
3. COVID-19 により顕在化したFVCの課題	■ 調査対象国でCOVID-19により発生した課題や変化の具体的な事例を整理・分析 ■ 分析は、現地報道情報、政府公表資料、現地企業や生産団体発表資料等の文献調査、並びに関連団体からのヒアリング調査を通じて実施	生産局面で農家の財務状況悪化を、運送、加工、流通局面で調達・加工の遅延を把握
4. 現地FVC 再構築に向けた動向	■ 3章で収集した課題・変化に対して、現地企業や政府機関などがどのような対策を講じているかを整理・分析 ■ 分析は、現地報道情報、政府公表資料、現地企業や生産団体発表資料等の文献調査、並びに関連団体からのヒアリング調査を通じて実施	生産、加工局面で農家や、中小企業向け金融支援、保管&運送、流通局面でインフラ投資やデジタル化を把握
5. 日本が貢献できる領域仮説	■ 2~4を通じて得た分析結果から、現地において日系企業が貢献しうと考えられる領域を導出して例示	日本の生産、加工、保管&運送、流通局面で計12個の案を提案
6. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告	■ 日系企業が対象国での食産業の事業展開を検討する機会とすることを目的に開催したTV 会議（ウェビナー）を実施 ■ TV会議には現地企業・政府機関、日系企業が参加を呼びかけ。現地と日本企業のビジネスマッチングも併せて実施	日越計104団体がTV会議へ参加。併せて両国間の企業マッチングを実施
7. 事業構想案	■ 2~6を通じて得た分析結果から、現地において日系企業が貢献しうと考えられる領域を導出し、事業構想案として例示	日本企業とのマッチングを希望した非乳製品加工メーカーをピックアップ、現地企業を起点とした事業構想案を作成

記載内容の例

章立て

2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

3. COVID-19 により顕在化したFVCの課題

4. 現地FVC 再構築に向けた動向

5. 日本が貢献できる領域仮説

6. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告

7. 事業構想案

南アジアの記載内容例

- グジャラート州ではエビの稚魚の輸入が止まり、来期の生産量が減少する見込み
- 有機食品がウイルスへの免疫力を高めるという評判から消費が増加。某店舗は売上100%増

- 出稼ぎ労働者の帰郷で輸送・加工が遅延し、食品ロス、在庫不足が発生
- 安全安心意識の高まりで実店舗利用が減少し、ECやデリバリー利用が加速

- 農業資材入手困難や農家の財務状況悪化に対する金融支援を実施
- コールドチェーンインフラや食品加工への投資
- EC分野の企業間連携やデジタル化が進行

- 長期的視点から物流インフラ整備やデジタル化への投資を行うことが効果的
- コールドチェーンインフラ、消毒・殺菌加工技術、AI等を使用した農業や検査の高度化などを紹介

- 現地の肥料・農業生産企業とコールドチェーン企業より現地FVCの現状についてスピーチを実施
- FVCのリアルタイム性確保のためのインフラ整備、包装など加工工程の自動化、衛生管理技術へのニーズを確認

- 食品加工技術強化ニーズに応え、食品加工自動化技術を提供して受託・共同生産を実施
- 食の安全意識の高まりに応え、トレーサビリティと安全安心を確保した商品を現地販路へ提供

東南アジアの記載内容例

- ロックダウンや外国人観光客の減少により肉製品を中心に消費量が一時減少
- 一方で、安全・衛生管理の観点か加工／冷凍食品の需要が増加。特に水産加工品が好調

- 物流の混乱によりコンテナ・輸送機器・倉庫不足が深刻化。物流コスト上昇からFVC全体へ影響
- 加工食品の原材料調達が滞り、供給が遅延
- 一方で、ECを活用した直販や小売が活性化

- 政府は、COVID-19の影響を受けた農家・エビ農家・酪農家等向けに運転資金援助を実施
- 大手食品メーカー、小売大手を中心に物資支援、販路提供、消費促進キャンペーンなど実施

- 資材、保管＆運送では、輸入・輸送制限への強靱化やコールドチェーン強化。生産・加工、卸・小売・外食では、スマート農機や調達販売プラットフォーム、O2O、内食需要対応策等が挙げられた

- 日越計104団体の参加者を迎えてTV会議を開催。Q&AセッションではCOVID-19の影響への今後の見通しなど多くの質問を受ける。アンケート調査を併せて実施し、両国のビジネス機会を創出

- 第3国展開に向けた協業、事業の拡大を目指した商品の改良、または新商品の開発、製品の安心安全加工処理機器の更新、食品廃棄物の軽減技術に対する事業構想案を作成

目次

1. はじめに	06	4. 現地FVC再構築に向けた動向	40
2. COVID-19による食市場・物流への影響と今後の見通し ..	08	1. 感染状況と感染拡大防止策	41
1. COVID-19における農林水産物への影響サマリ	09	2. 政府による施策	42
2. 主要な農産物の生産量	10	3. 企業による施策	44
3. 主要な農産物の消費量	12	4. 第3国の企業、国際機関の対応策	48
4. 主要な農産物の輸入量	13	5. ビジネス機会の方向性仮説	50
5. 主要な農産物の輸出量	14	1. ベトナムにおける3つのKey Issues	51
6. 加工食品、冷凍食品、有機食品の生産量、消費量 ..	15	2. 注力する課題分類「肉体改造と体質改善領域への投資」	52
7. 加工食品、冷凍食品の輸入量、輸出量	16	3. 「肉体改造と体質改善」が求められる背景	54
8. 小売・レストランの店舗数、売上高	17	4. 主要課題の対応方向性	56
9. 包装食品の販売チャネル割合、外食サービスの 利用チャネル割合	18	5. 投資が進む可能性のあるテーマ例	57
10. 消費者支出内訳、主要な消費者トレンド	19	6. 日本が貢献できる領域仮説	58
11. 所得別の消費者マインド	20	1. 投資領域に対する日本のソリューション	59
3. COVID-19により顕在化したFVCの課題	21	2. 具体的なソリューション例	61
1. ベトナムにおけるFVC上の課題サマリ	22	7. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告	72
2. 農業資材	23	1. TV会議概要	73
3. 農業生産	24	2. 現地企業・日本企業へのアンケート結果	77
4. 保管&運送	27	3. マッチング基本方針	81
5. 食品加工	31	8. 事業構想案	82
6. 卸・小売	34	1. アンケート結果から見られる現地企業の課題・ニーズ ..	83
7. 消費	37	2. 食品加工会社を起点とした事業構想案論	84

ベトナム

1. はじめに
2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
3. COVID-19により顕在化したFVCの課題
4. 現地FVC 再構築に向けた動向
5. ビジネス機会の方向性仮説
6. 日本が貢献できる領域仮説
7. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告
8. 事業構想案

ベトナム

1. はじめに

2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
3. COVID-19により顕在化したFVCの課題
4. 現地FVC 再構築に向けた動向
5. ビジネス機会の方向性仮説
6. 日本が貢献できる領域仮説
7. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告
8. 事業構想案

1. はじめに

■ 本調査のねらい

COVID-19の影響を受けている東南アジア（タイ、ベトナム）がFVC再構築を目指す中、我が国の技術・ノウハウを活用し現地で食産業の展開を維持・拡大することは現地国にとっても我が国の海外展開にとっても重要であると想定されます。この技術・ノウハウを活用した食産業の展開に資する施策を検討するため、現地でCOVIDによるFVCへの影響や見通し、FVC再構築に向けた動向を調査することを目的とします。

■ 調査対象国 ベトナム

ベトナム

1. はじめに

2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

3. COVID-19により顕在化したFVCの課題

4. 現地FVC 再構築に向けた動向

5. ビジネス機会の方向性仮説

6. 日本が貢献できる領域仮説

7. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告

8. 事業構想案

2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し 2.1 COVID-19における農林水産物への影響サマリ

農作物の生産量は、COVID-19の影響に加え大規模洪水の影響もあり減少。主要貿易相手国である中国との一時的な国境閉鎖により輸出入量が減少するが、エビ養殖を軸に輸出は好転する

生産量：

生産量の減少 ↓

- COVID-19の影響下において、一時は生産減少するも、農業部門は前年比を上回る年間成長率を達成
- 一方で、ベトナム中部の大規模洪水の影響により農作物は壊滅、農家にさらに打撃を与え復旧困難な状況へ

輸入量：

輸入量の鈍化 ↓

- 農作物用原材料約30%を中国からの輸入に頼っていたが、サプライチェーン遮断により、原材料の調達が困難
- タイなどの近隣諸国からの輸入量も減少

消費量：

国産品消費の増加、価格高騰化 ↑

- 国民の食への安全性意識から国産品（豚肉など）志向傾向が顕著に。国産品価格が一時高騰
- 果物等の輸入食品への消費量減。一方で輸送費高騰により取引価格上昇

輸出量：

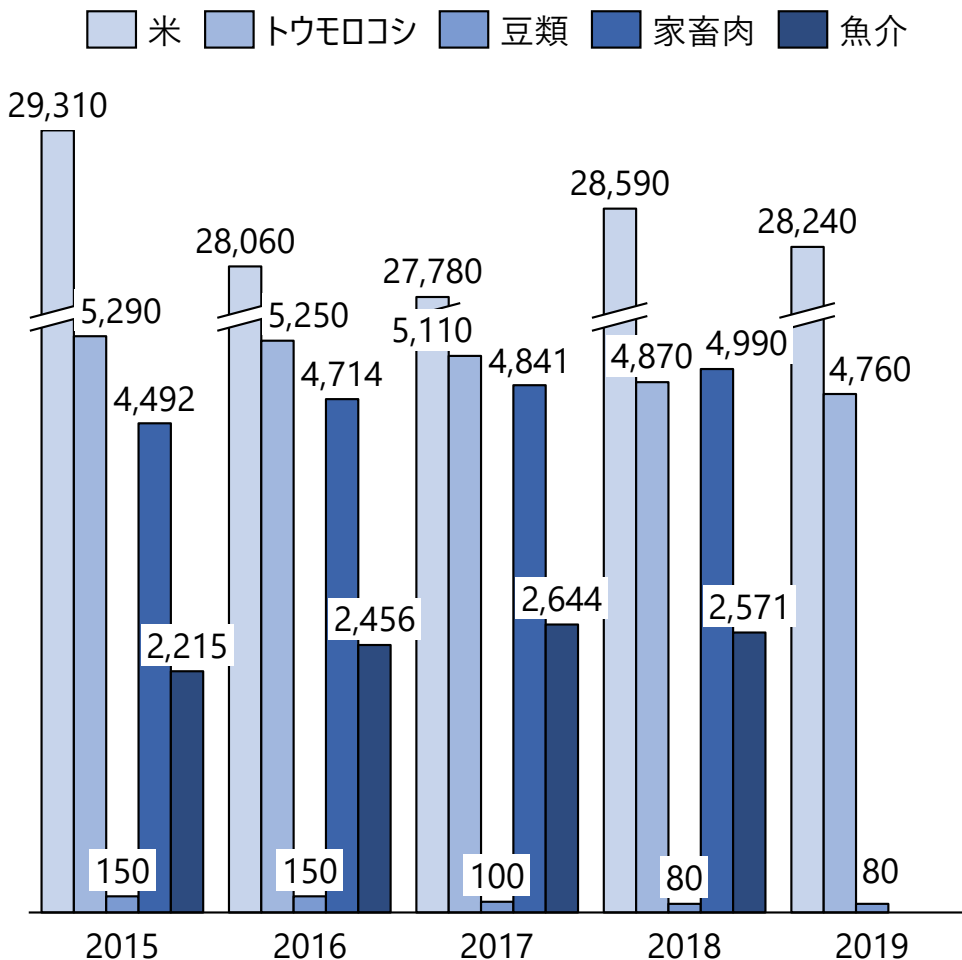
輸出量の増加 ↑

- エビ養殖は、インド、インドネシア、タイなど、他国がコロナ感染で苦しむ中、輸出拡大に成功
- EUとの自由貿易協定の活用によりコメ輸出に活路

2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し 2.2 主要な農産物の生産量

生産量| COVID-19の影響にも拘わらず、農業部門は前年比を上回る成長率を達成する見込み
ベトナム中部の大規模洪水の影響により農作物は壊滅、農家にさらに打撃を与え復旧困難な状況へ

主要農林水産物の生産量推移, 2015-2019 (千トン)



主なトレンド／特性

農作物生産の傾向

- 世界第5位の米の生産国、耕地が国土の82%を占める
- 約1,500万人以上が農家にて生計を立てている為、国の緊急事態や市場の需要変動に敏感に反応
- 2019年からの深刻な干ばつと塩害被害により、米の生産量が激減

家畜産業の傾向

- 家畜産業は、最も急成長を遂げる産業の一つ
- 生産量として豚肉（73%）が最も盛ん。鶏肉（19%）、牛肉（6%）
- 近年のアフリカ豚熱（ASF）の影響により生産量が激減

水産養殖技術の発展

- 近年の養殖技術の発達により、養殖での生産量が海洋魚を上回る
- 中でも養殖淡水魚は年間養殖生産量の約90%以上
- 主に、養殖エビ、パンガシウス、ティラピアを養殖

COVID-19による影響

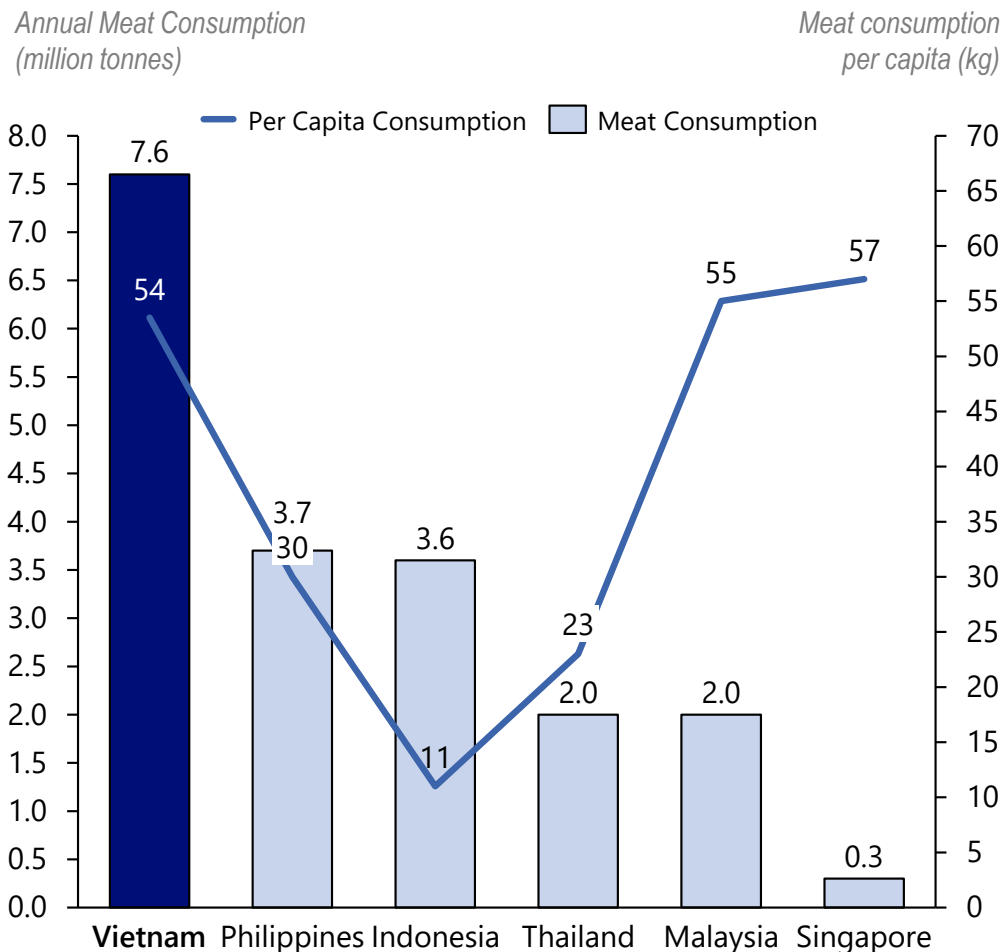
生産量の減少

- COVID-19の影響から家畜肉、作物全般の生産量が減少
- COVID-19の影響下において、農業部門は前年比を上回る年間成長率を達成する見込み
- ベトナム中部の大規模洪水の影響により農作物は壊滅、農家にさらに打撃を与え復旧困難な状況へ
- 2020年の水産品の生産量が前年比1.9%増の840万トンを達成

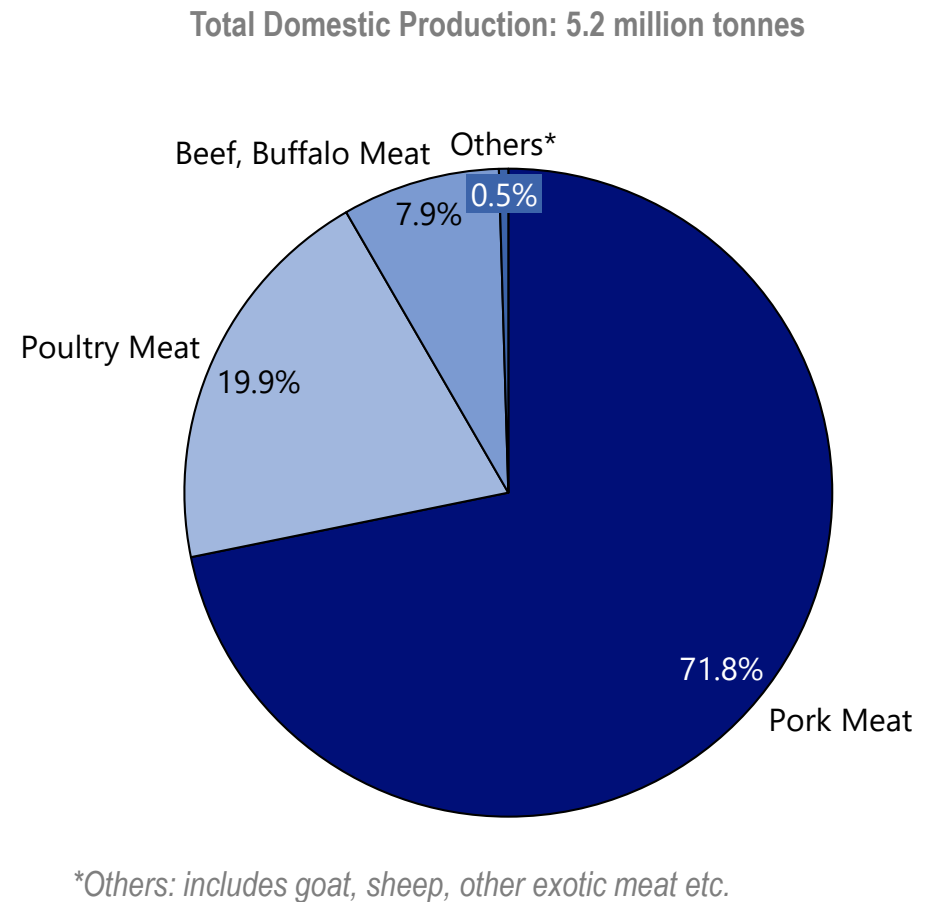
2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し 2.2 主要な農産物の生産量

参考) ベトナムは肉消費大国であり、うち豚が7割超を占めている
昨今の豚肉の供給不足は国内市場の大きな混乱を招いている

ASEAN主要国における食肉消費量（2017年）



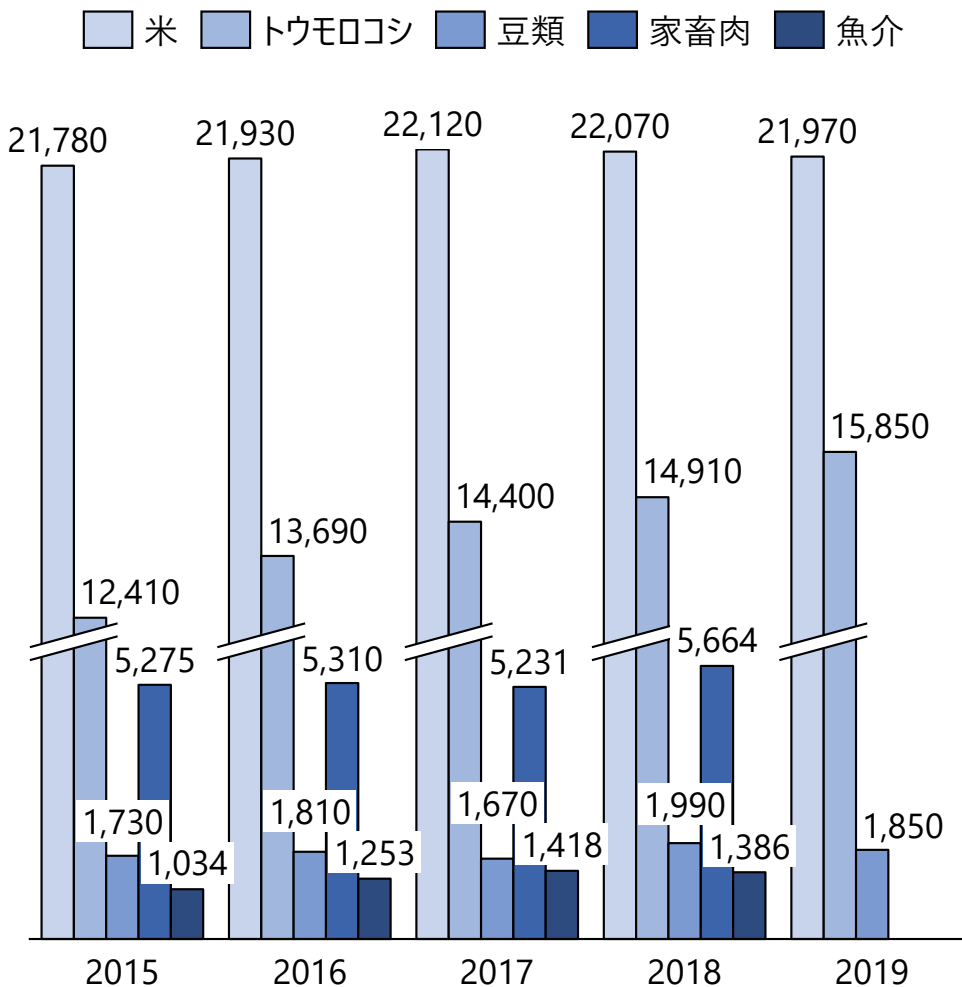
ベトナムの家畜製品内訳（2017年度）



2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し 2.3 主要な農産物の消費量

消費量|国民の食への安全性意識から国産品の志向傾向ヘシフト。国内の豚肉価格が継続的上昇
テト（旧正月）期間中の果物の輸入量を大幅削減へ、一方でコスト高により取引価格は上昇傾向

主要農林水産物の消費量推移, 2015-2019（千トン）



主なトレンド／特性

農作物消費の傾向

- 主食である米の消費量が最多
- 家畜の飼料としての需要がトウモロコシの消費を促進
- 降雨量で農作物が被害を受け価格が上昇、豆類の消費量が減少

肉の消費量増加

- 一人当たりの肉の消費量は年間33kg／人他国と比較し低い（参考：米国107kg／人、EU76kg／人）
- 近年の外資系外食チェーンの進出により、国民の食生活が変化し、肉の消費量が増加

消費者支出の増加

- シーフードの消費者支出の伸びは、他のセグメントを上回る予想
- 消費者は安価な川魚よりも高価な海水魚を選好（一人当たり支出は2024年に33.4米ドルから48.8米ドルに達する見込み）

COVID-19による影響

供給減

- 野菜や果物などの生鮮食品の主をタイや中国の輸入に依存していたが、物流ネットワークの遮断により、供給がストップ

国産品消費の増加

- 国民の食への安全性意識から国産品志向傾向が顕著に
- 海外からの冷凍豚肉より生鮮豚肉を好む消費者の傾向から、COVID-19の動物への感染も懸念される中、豚生体の輸入を開始
- しかし、国民の国産豚肉・生鮮豚肉を好む傾向から豚肉価格が継続的に上昇する見通し

価格高騰化

- テト（旧正月）期間中の果物の輸入量を大幅削減へ、一方で国際線の不足等のコスト高により取引価格は上昇傾向

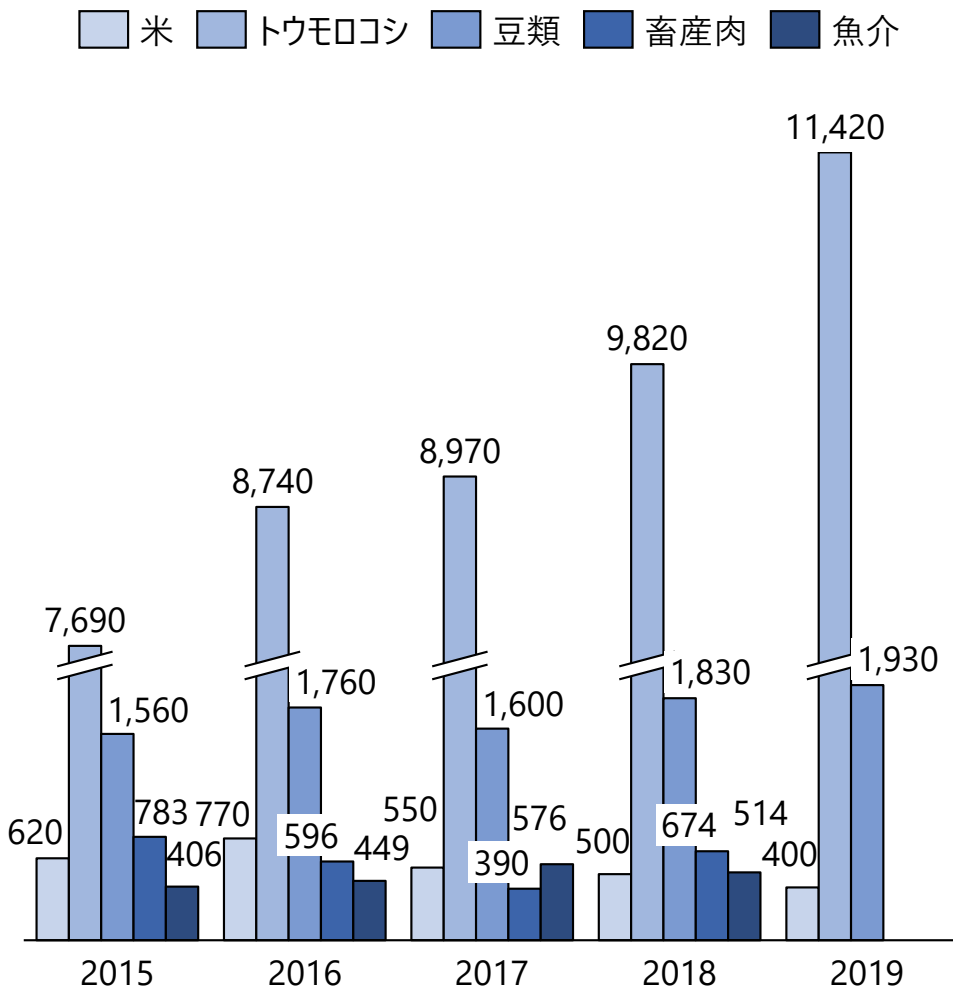
需要減

- 需要量の低下によりサーモンとニジマス農家は経営の危機へ

2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し 2.4 主要な農産物の輸入量

輸入量| 国内のアフリカ豚熱（ASF）の発生により豚肉、牛肉などの輸入量が過去最高を記録
COVID-19の影響により水産加工原料が調達困難へ。2020年12月21日より食品輸入規制を強化

主要農林水産物の輸入量推移, 2015-2019（千トン）



主なトレンド／特性

主要輸入元

- 米：韓国、中国、タイ（2019）
- トウモロコシ：タイ、インド、中国（2019）
- 豆：米国、ブラジル、カナダ（2019）
- 肉：中国、米国、ロシア（2019）
- 魚介類：中国、アラブ首長国連邦、タイ（2019）

農作物輸入の傾向

- 世界最大のトウモロコシ輸入国の一つ
- アフリカ豚熱(ASF)の発生により、トウモロコシ等の畜産用飼料の需要減

家畜肉の動向

- 国内のアフリカ豚熱（ASF）の発生により、カナダ、ポーランド等からの豚肉／牛肉／鶏肉の輸入量が過去最高を記録（約200%増）

水産加工の発展

- 輸出を目的とした水産加工産業が急速に発展
- 40の国と地域から水産加工原料用のエビ、ナマズを輸入

COVID-19による影響

中国との貿易の鈍化

- 農作物用原材料約30%を中国からの輸入に頼っていたが、ロックダウンによるサプライチェーン遮断により、原材料の調達が困難
- 原材料から完成品まで輸入品全体が縮小
- 四半期の野菜と果物の輸入量は、2億9,400万ドル（前年比29.8%）減少。タイからの輸入は90%減、中国からの輸入は27.7%減

輸入規制強化

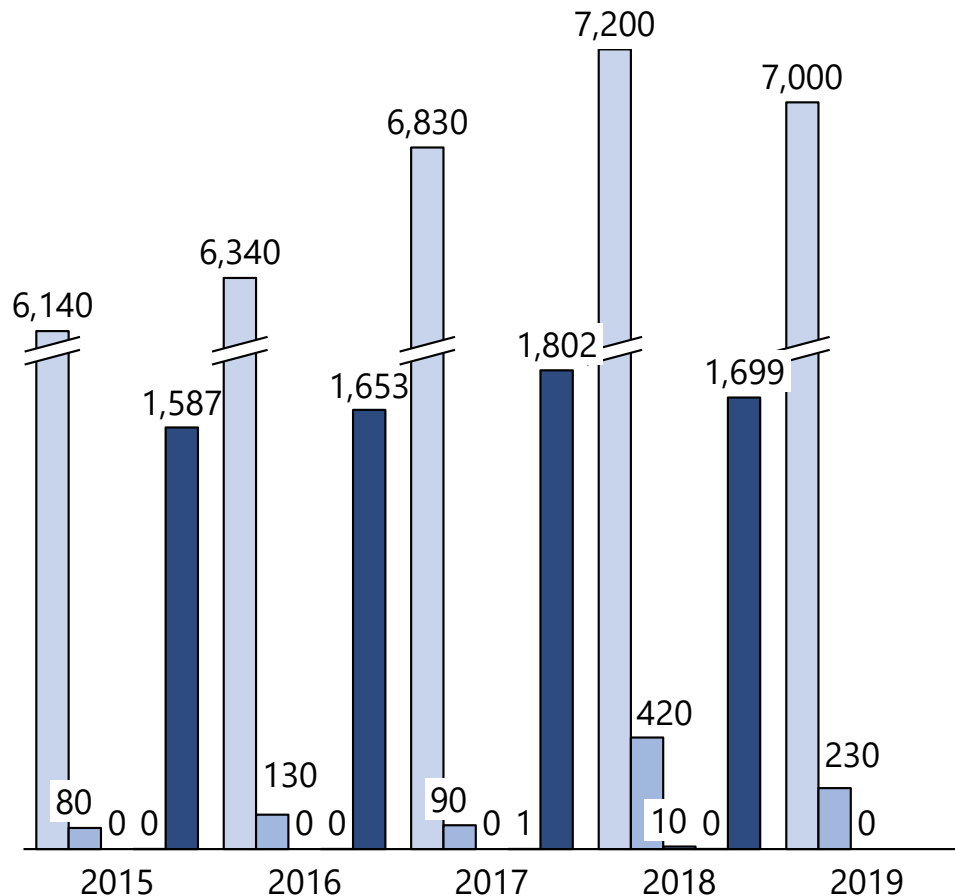
- 2020年12月21日より食品輸入規制を強化

2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し 2.5 主要な農産物の輸出入

輸出入量 | COVID-19の影響によりライバル国の輸出入量が減少。唯一ベトナムは、2020年1月～9月の農林水産品輸出入額が305億ドルと前年比1.6%増。2020年の農林水産物輸出入の8品目が10億ドル超

主要農林水産物の輸出入量推移, 2015-2019 (千トン)

米 トウモロコシ 豆類 家畜肉 魚介



主なトレンド／特性

主要輸出入先

- 米：中国、インドネシア、フィリピン（2019）
- トウモロコシ：フィリピン（2019）
- 豆：ドイツ、インド、カナダ（2018）
- 肉：香港、マレーシア、米国（2018）
- 魚介類：日本、米国、韓国（2019）

輸出入の傾向

国内需要向け 家畜肉

- 米の輸出入量は、タイ、インド、中国を相手に第3位を維持

水産加工品 の輸出入

- 家畜肉の主な輸出入は、国内需要向け

- パンガシウス、マグロ、エビ、海洋魚を始めとした水産加工品の輸出入大国

COVID-19による影響

輸出入量の 増加

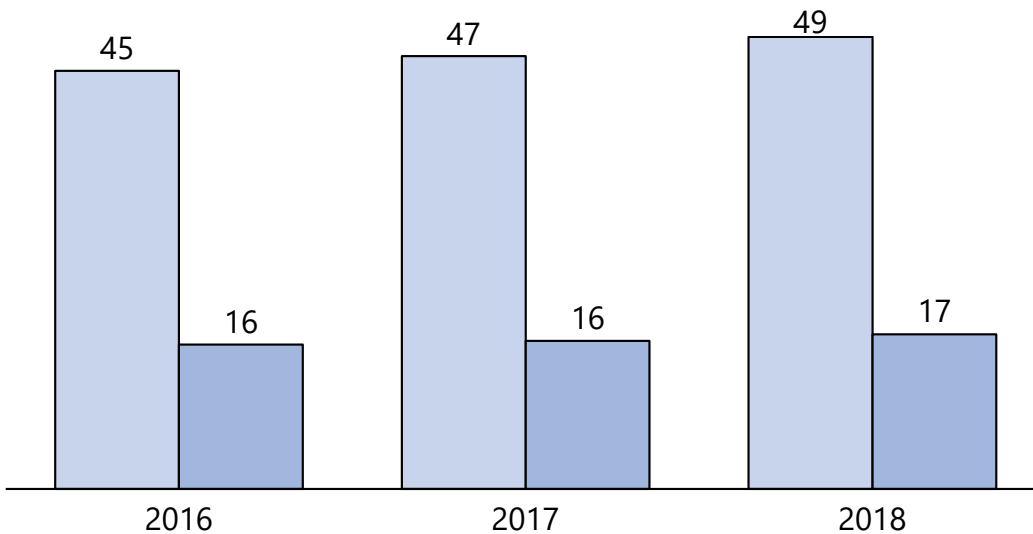
- インド、エクアドル、インドネシア、タイなどのエビ養殖関係者がコロナ感染で苦しむ中、国内の感染者を抑制に成功し輸出入全体は好調に推移
- EUとの自由貿易協定（EVFTA）活用によりコメ輸出入に活路
- 2020年の1月～9月の農林水産製品の輸出入は305億ドルに達し、前年同時期比1.6%の増加（輸出入総額の約15%）
- 2021年のエビ輸出入が15%増の40億ドル予測
- 2020年の農林水産物輸出入のうち8品目が10億ドル超。国産米が過去最高値となり国内供給が不足、インド米を初輸入開始。ベトナム産果物・野菜類の輸出入金額が2020年より減額。家畜飼料の輸出入が2020年は17%増。ベトナム産マグロ輸出入への回復は来年以降と予測

2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し 2.6 加工食品、冷凍食品、有機食品の生産量、消費量

加工食品、冷凍食品の生産と消費| エビやナマズの養殖加工や冷凍製品など需要の高まりから生産量と消費量共に拡大。有機食品の主は有機牛乳などの乳製品が主流

加工食品、冷凍食品の生産（千トン）

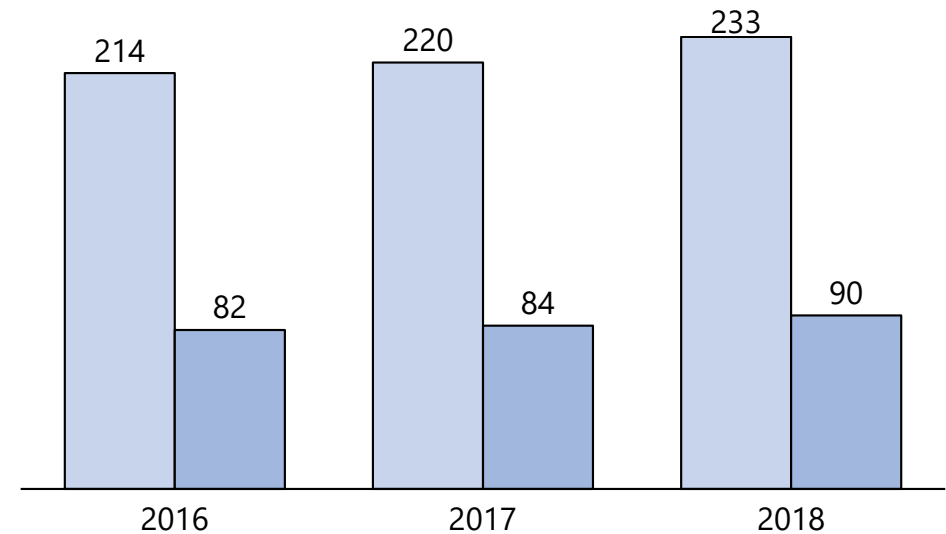
■ 加工食品 ■ 冷凍食品 *有機食品のデータなし



- 全食品カテゴリで消費が増加
- ベトナムのエビ養殖企業は、COVID-19の発生後数か月は生産量が減少
- インド、エクアドル、インドネシア、タイなど他国のエビ養殖関係者がコロナ感染で苦しむ中、国内の感染者を抑制に成功し輸出全体は好調に推移

加工食品、冷凍食品の消費（百万ドル）

■ 加工食品 ■ 冷凍食品 *有機食品のデータなし



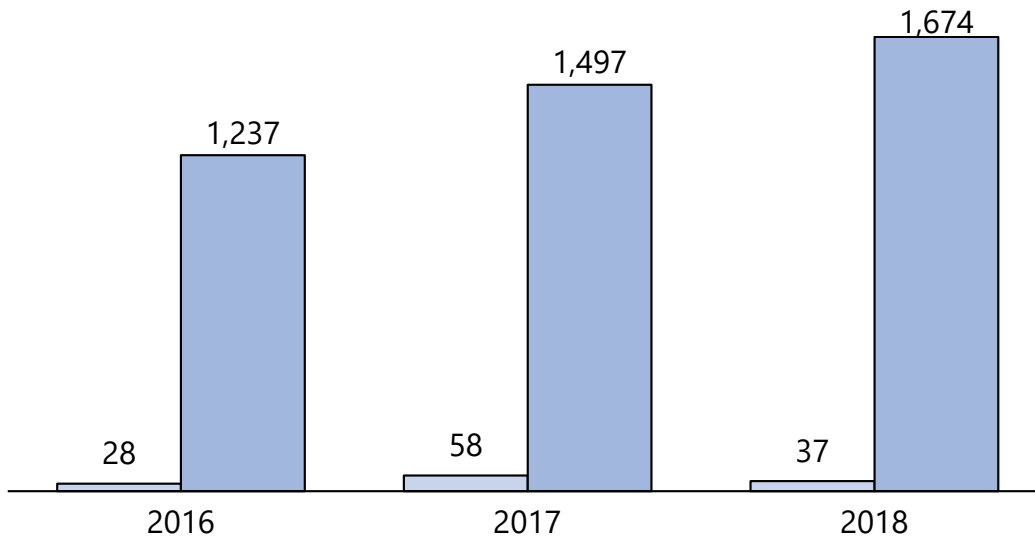
- 電力網と冷凍設備の普及により、都市部から農村部まで冷凍食品が提供できるようになり、その市場は拡大
- オーガニック食品の流通は非常に限られており、その主な割合は有機牛乳乳製品企業：Vinamilk、TH True Milk、Friesland Campina Vietnam等
- 保存が利く加工食品や冷凍食品の需要が急増

2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し 2.7 加工食品、冷凍食品の輸入量、輸出量

加工食品、冷凍食品の輸出入| サプライチェーンの混乱により原材料の調達が一時的に困難に 他国が感染拡大に苦しむ中、国内の感染者の抑制に成功し輸出全体が好調に推移

加工食品、冷凍食品の輸入（百万ドル）

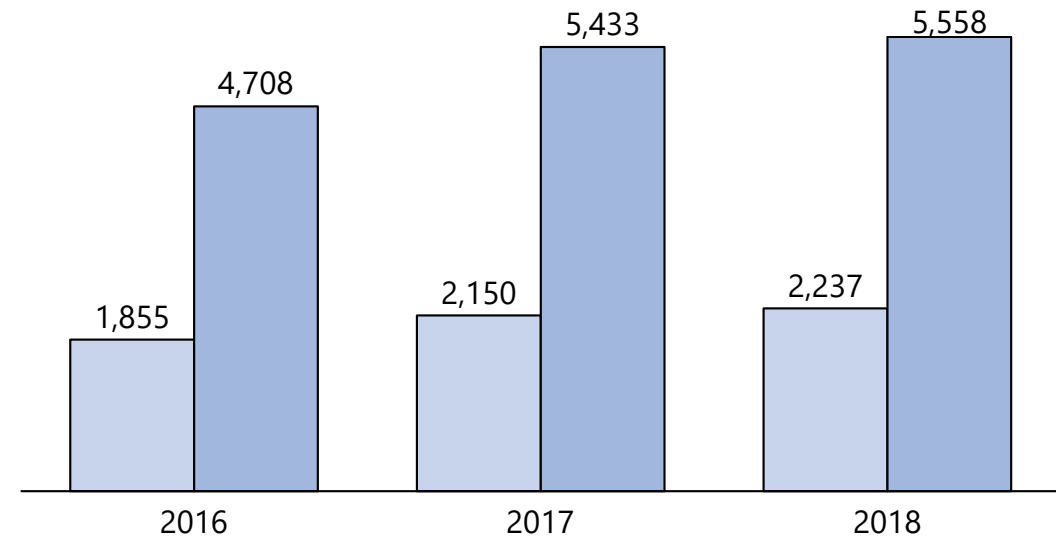
■ 加工食品 ■ 冷凍食品 *有機食品のデータなし



- 冷凍牛肉、豚肉、鶏肉の輸入は、ベトナムの豊かさの高まりに伴い、ここ数年で大幅に増加
- 輸出を目的とした水産加工産業が急速に発展し、40の国と地域から加工原料用のエビ、ナマズを輸入
- 農作物用原材料約30%を中国からの輸入に頼っていたが、サプライチェーン混乱により原材料の調達が困難に

加工食品、冷凍食品の輸出（百万ドル）

■ 加工食品 ■ 冷凍食品 *有機食品のデータなし

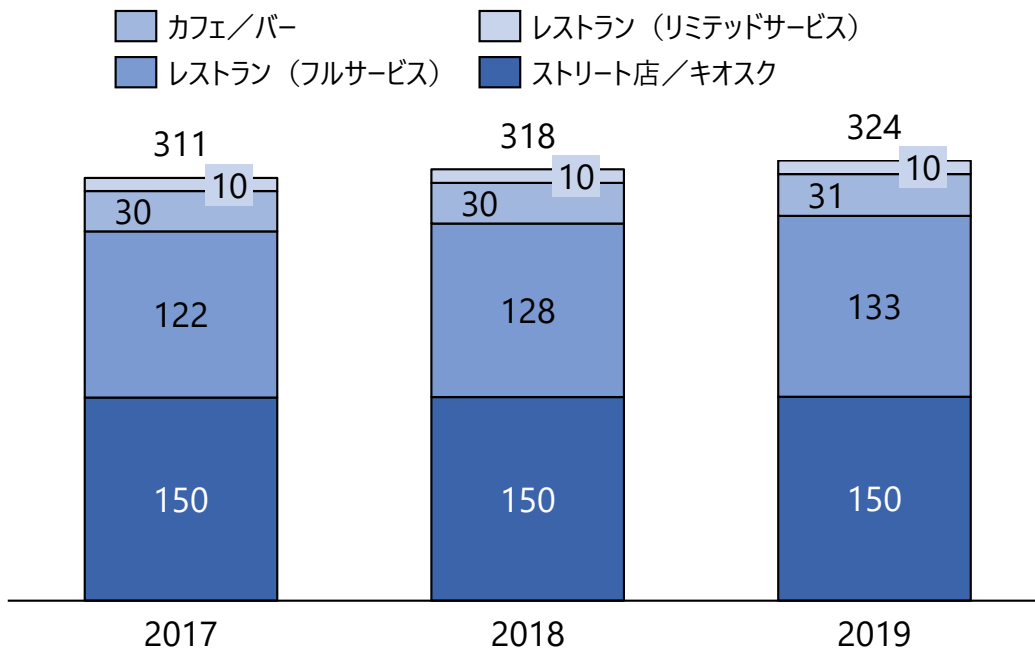


- エビや冷凍魚の切り身の輸出が好調に推移
- 加工魚は加工食品輸入の成長ドライバー
- エビ養殖企業は、COVID-19の発生後数か月は輸出量の減少に直面
- インド、エクアドル、インドネシア、タイなど他国のエビ養殖関係者がコロナ感染で苦しむ中、国内の感染者を抑制に成功し輸出全体は好調に推移

2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し 2.8 小売・レストランの店舗数、売上高

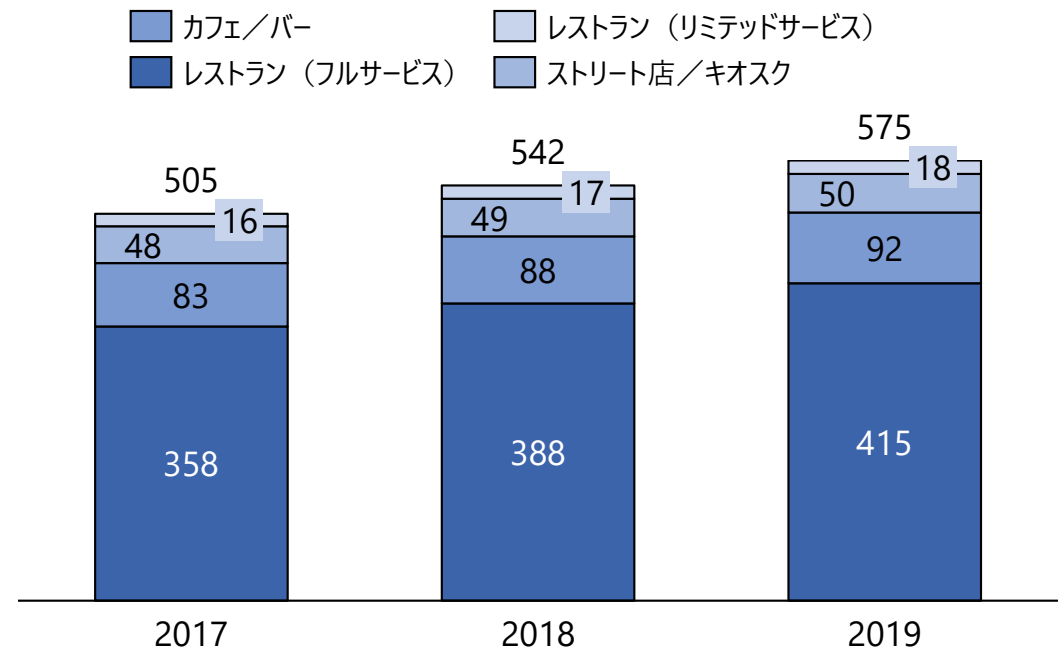
小売・レストランの店舗数・売上| COVID-19によるロックダウンや外出規制がF&B業界に大打撃
閉店に追込まれるレストラン多発。店舗の多くはオンラインやデリバリーサービス等へシフトさせ売上を維持

小売・レストランの店舗数（'000 units）



- レストランの店舗形式として、屋台、キオスクタイプとレストランが最多
- ベトナムの日本食レストラン数は、年々増加傾向
2017年: 650店舗、2018年: 1,075店舗、2019年: 1,500店舗)
- COVID-19によるロックダウンや外出規制がF&B業界に大打撃
閉店に追い込まれるレストラン多発

小売・レストランの売上高（'000 VND billion）

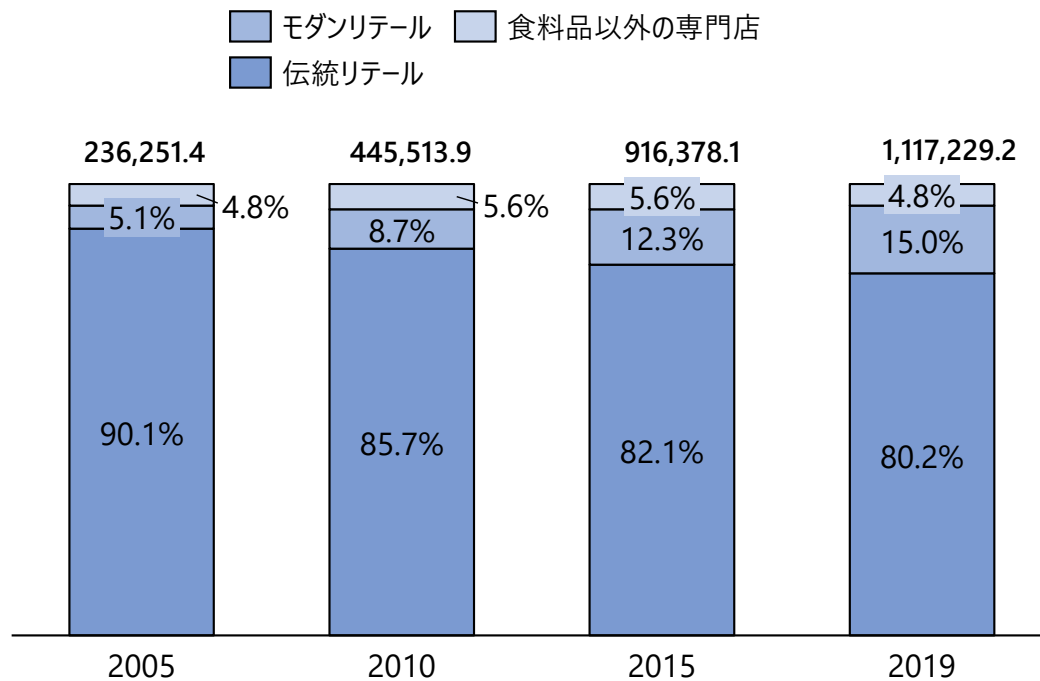


- 客単価の高いカフェ／バーやフルサービスレストランの店舗数拡大により、レストラン産業全体の売上高が拡大
- 顧客単価の高いレストランの売上シェアが8割以上
- 営業規制により7月までの食品・外食産業の売上は281兆ドン（121億米ドル）と前年比16.6%減
- 一方で、オンラインやデリバリーサービスなどから売上を維持する店舗も多数

2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し 2.9 包装食品の販売チャネル割合、外食サービスの利用チャネル割合

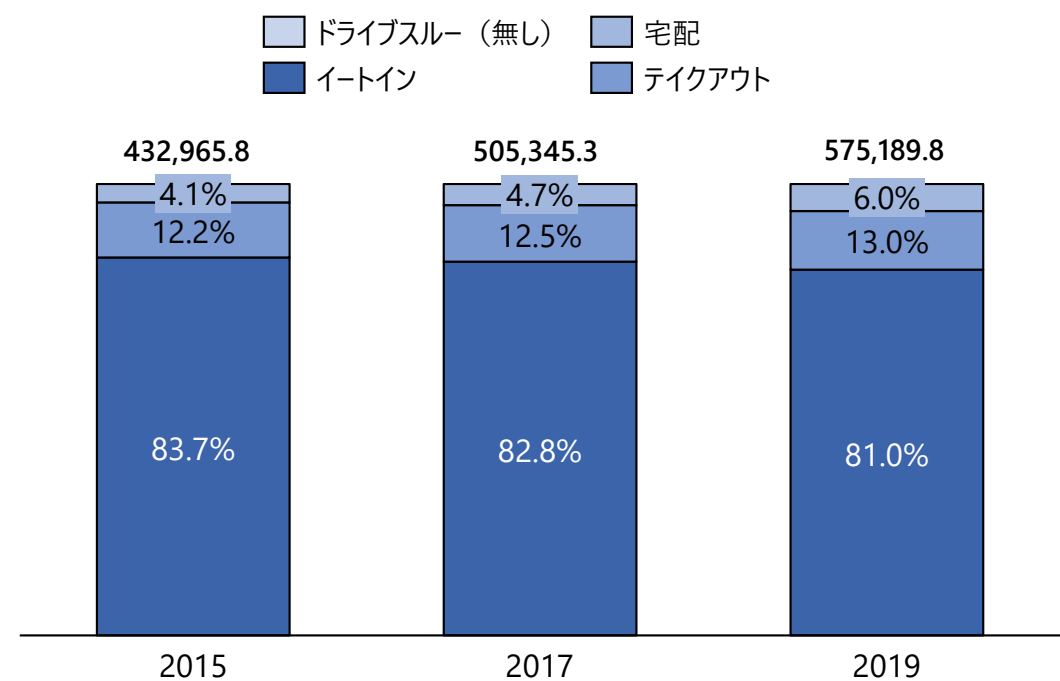
包装食品| COVID-19により包装食品、乳製品等が成長。イベント等の減少から飲料の販売量が減少
外食サービス| ロックダウンや外出自粛は、主に都心部に出店する高級層向け飲食店に影響拡大

包装食品の販売チャネル割合



- 伝統リテールが約80%以上
- モダンリテールの割合が年々増加傾向
- COVID-19により、包装食品、乳製品、パーソナルケアのカテゴリーは成長
- パーティーやイベントの減少から飲料の販売量が減少

外食サービスの利用チャネル割合



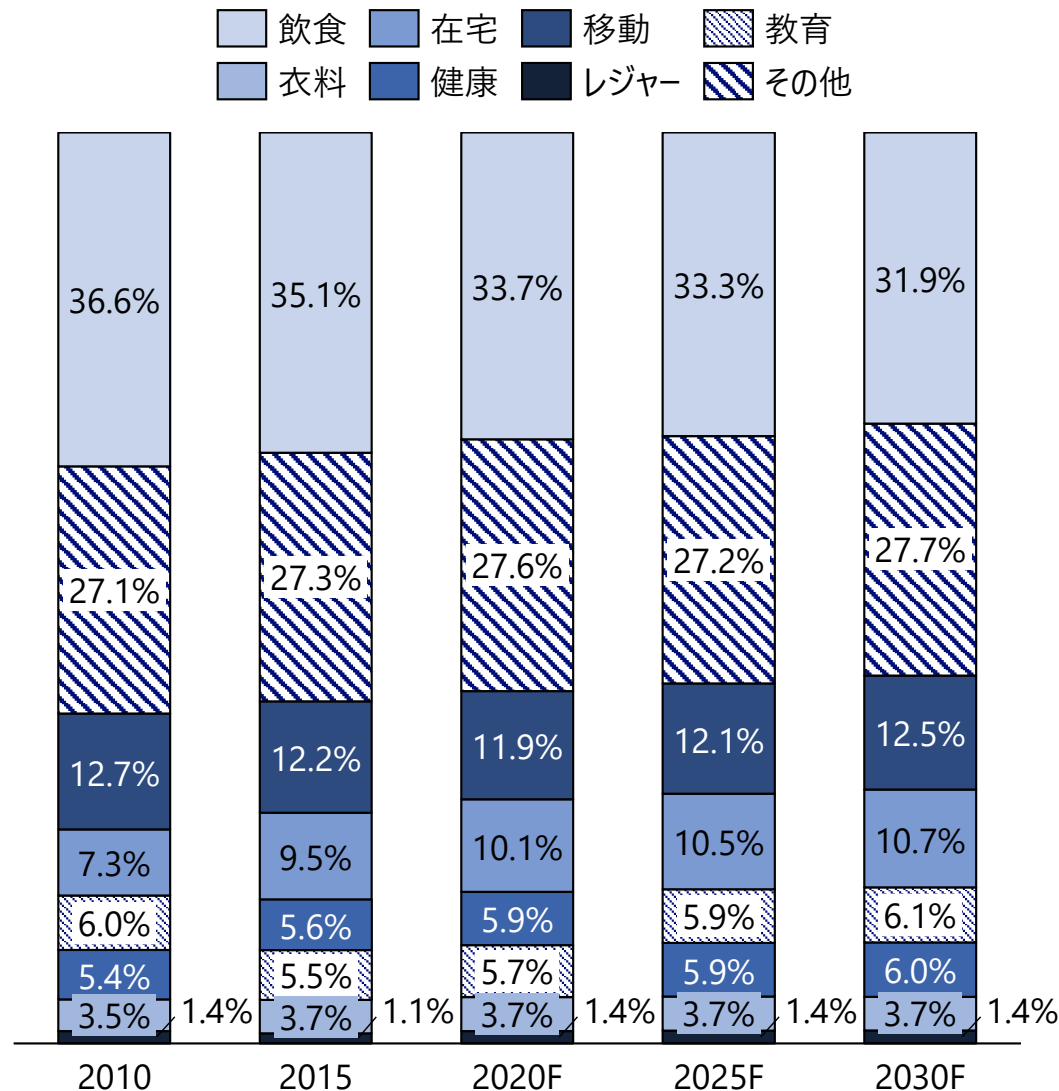
- 宅配とテイクアウトの増加により、イートインの割合が減少傾向
- オンラインやデリバリーサービスなどから売上を維持する店舗も多数
- ロックダウンや外出自粛の影響は、主に都心部に出店する飲食店（特に高級層向け）

2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し 2.10 包装食品の販売チャネル割合、外食サービスの利用チャネル割合

消費者支出内訳| 健康意識を高め、食の安全性や質からオーガニック食品などの需要を後押し
消費者の買い溜め等から爆発的に伸びていた日用消費財支出が一服

消費者支出内訳 (百万ドル)

主要な消費者トレンド



- 中間所得者層の増加により、健康に関心が高まり、ベトナムの主要な乳製品生産者もナッツミルク製品の拡充に注力
- Vinmart + や Saigon Co.op など地場の小売業者が強く、また同業同士による M&A など大規模な拡張計画を行っている。結果、外資の小売業者は国内で成長することが困難
- B2C および C2C の e コマースチャネルの利用率は年々増加傾向にあり、ローカルプレイヤーとして Tiki や Sendo や、グローバルプレイヤーの Lazada や Shopee など市場に存在
- 国内のスマートフォンの普及率が、2017 年の 31 % から 2023 年には 45 % に増加予測。特に農村地域での携帯電話への支出が増える見込み
- アクティブなソーシャルメディアの普及率は 64 %。中でも、Facebook のユーザー数は世界で 7 位の 4,530 万人（2019 年 7 月）
- COVID-19 は消費者の食への健康意識を高め、食の安全性や質からオーガニック食品などの需要を後押し
- また支出割合では、オンラインショッピングに費やされる支出が拡大。レジャーや外食などは減少する見込み
- ベトナムの電子商取引収入は、第 4 四半期に 120 億米ドルに達する企業の 24 % が収益の 51 % 以上増加
- 新型コロナウイルスの影響を受けて爆発的に伸びていたベトナムの日用消費財（FMCG）支出が一服

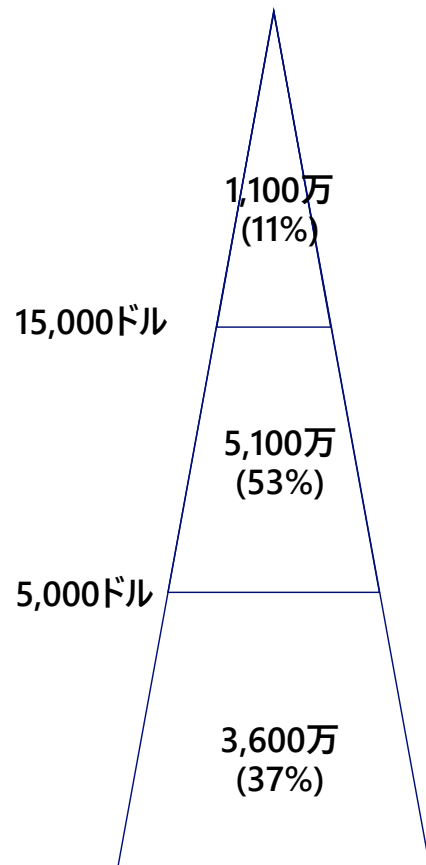
2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し 2.11 所得別の消費者マインド

消費者マインド| 富裕層や中間層は食品デリバリーの利用が広まる

ロックダウンによる雇用と収入の低下から、低所得者向けに米や現金支援を地方自治体が実施

所得別の消費者マインド

年間所得別人口ピラミッド
(実質価格)



消費者マインド

- 高所得格差の広がり
- 健康意識が高く、栄養強化食品、栄養補助食品などへの関心が高い

- 中間所得層の増加
- 所有意識が薄く、経験を優先
- プレミアム料金を支払うことを躊躇しない

- 手頃な価格を好む
- 世帯規模が大きく、低い教育水準により低所得
- 都心より遠隔地に居住

COVID-19の影響

- 高級所得層は、フードデリバリーやケータリングサービスを好んで利用
- 免疫力が向上する食品（乳製品など）好んで購入

- ロックダウンによりフードデリバリーの利用増加
- 制限緩和後も、人混みを避けるため自宅で食事をする傾向が根強く残る
- 継続的にフードデリバリーアプリを好んで利用

- 雇用と収入の低下から、消費は必要不可欠な食料品を中心に購入
- 地方自治体は、約2,200万人の低所得者に対して米の支給や現金支援を実施

*Note: 15歳以上の所得別人口を使用 (0-14歳の人口を除く)

Source: Euromonitor、ニュース記事、NRI Analysis

ベトナム

1. はじめに
2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し

3. COVID-19により顕在化したFVCの課題

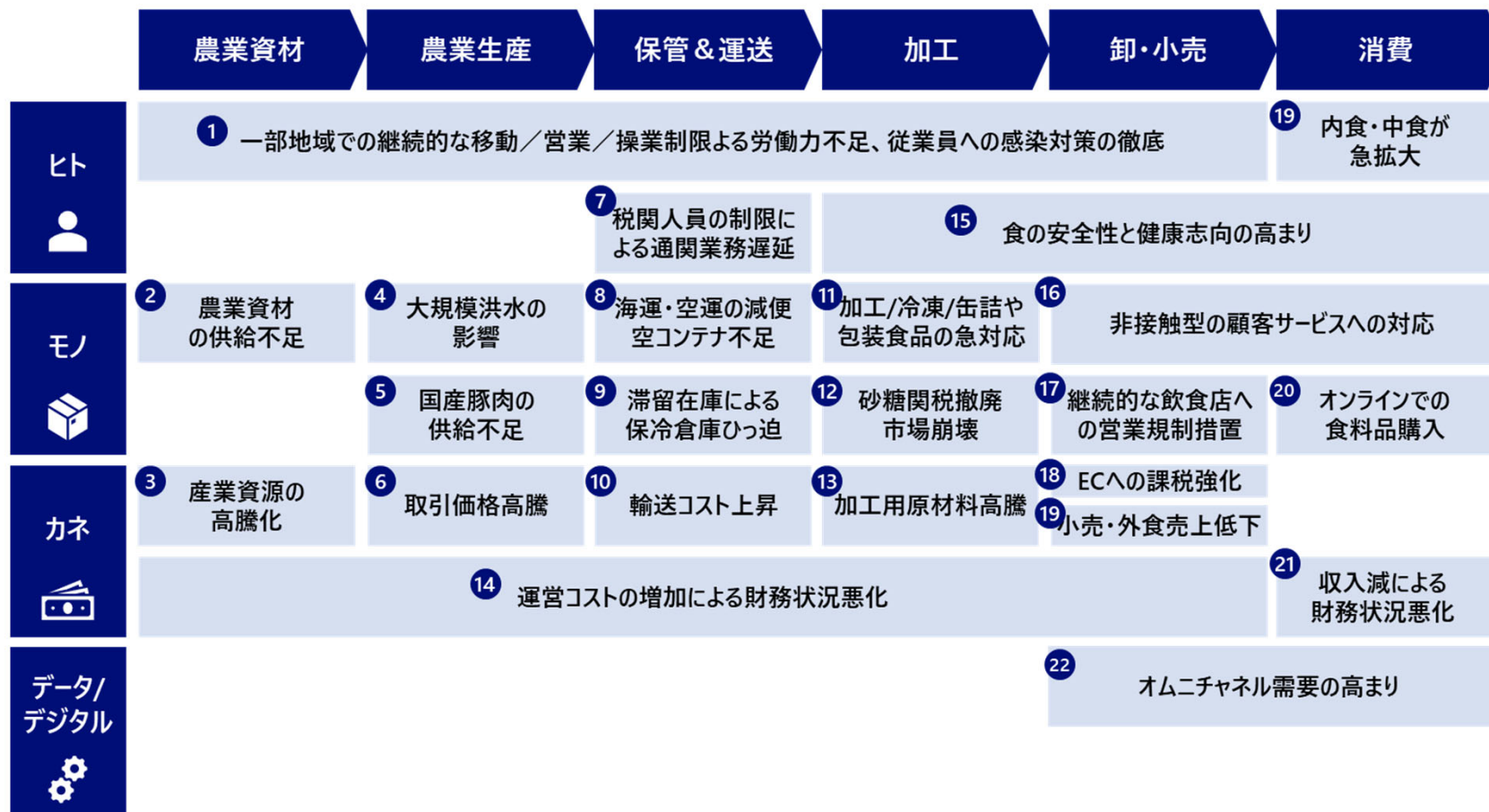
4. 現地FVC 再構築に向けた動向
5. ビジネス機会の方向性仮説
6. 日本が貢献できる領域仮説
7. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告
8. 事業構想案

3. COVID-19により顕在化したFVCの課題 3.1 ベトナムにおけるFVC上の課題サマリ

3.1 ベトナムにおけるFVC上の課題サマリ

- ロックダウンの発令から、農業資材業者が営業停止。農業資材の多くを中国からの輸入に頼っていたため一時生産に影響が生じた。生産では、米の禁輸措置や主要輸出先である中国との国境閉鎖により、農作物の輸出が激減し国内が供給過剰。輸送では、船会社の減便の中、輸出が急増しコンテナと輸送機器不足が深刻化。安全対策により入港・通関業務が遅延。輸送料金は高騰。食品加工においては、保存型の加工食品（冷凍食品や缶詰製品）の需要が急増。農家はスマートフォンからFacebook等のオンラインのマーケットプレイスを介し農作物の販売開始。消費者は、食品の安全性意識が高まり、スーパーマーケット等の利用が増加した。

COVID-19の影響により顕在化・加速が進んだベトナムにおけるFVC上の課題

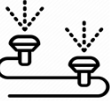


3. COVID-19により顕在化したFVCの課題 3.2 農業資材

ロックダウンの発令から、農業資材業者が営業停止。また、種子や肥料など農業資材の多くを中国からの輸入に頼っていたため、一時生産に影響が生じた



農業資材への影響

テーマ	影響	内容
 種子	供給が一時停止 輸送コストも上昇	- ロックダウンの発令により、農業資材業者が営業停止。供給が止まり一時混乱が発生 - 特に海外からの新規輸出受注に悪影響を及ぼした - 特に空輸の花／観賞用植物の種子などは輸送コストが上昇し価格に影響を及ぼした
 肥料	中国からの供給が停止 価格が一時急騰	- 肥料は中国からの輸入に依存する為、物流や検疫の滞りが一時ストップ。政府は、ロックダウン中も特別措置により肥料工場の稼働を許可し対応 - ベトナム全土で肥料価格が一時急騰
 農薬	中国からの供給が停止 農薬需要が減少	- 農薬の多くは中国からの輸入に依存していたため国内の在庫が不足に - 一方で、農作物の生産減により、農薬の需要も減少
 農業機械	買替えの見送り	- 農作物の需要・生産量低下により農家の資金繰りが悪化、農業機械の買替えや新規購入を見送り - COVID-19の教訓から、農業の機械化・デジタル化を更に促進させる農家も一部では存在
 灌漑	塩害被害に続き 農家の収入低下	- 南部地域では2019年から塩害被害が拡大し打撃を受けた農家の収入が低下、新型コロナによる経済低迷が追い打ちをかける - 農業開発支援の国際組織等が、灌漑システムの構築を支援

3. COVID-19により顕在化したFVCの課題 3.3 農業生産

「米の禁輸措置」発令による農家への混乱発生。主要輸出先である中国との国境閉鎖により、農作物の輸出が激減し国内が供給過剰。また、豚肉需要は高いが生産の回復が遅れている



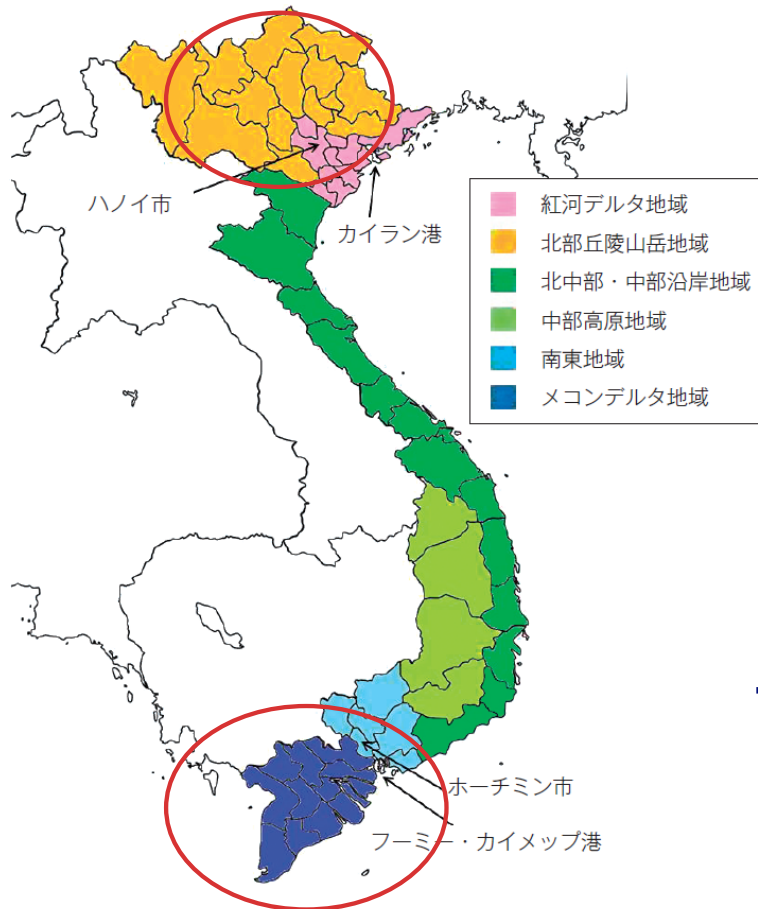
農業生産への影響

テーマ	影響	内容
 米	米の禁輸措置により 混乱が発生	メコンデルタ地域の干ばつと塩水遡上の深刻化により、政府は国内の米の供給量確保のため「米の禁輸措置」を3月24日に発令。しかし、農家と輸出業者を中心に混乱を与える結果となった
 家禽肉	豚肉の生産量の 回復への遅れ	2019年に発生したアフリカ豚熱とCOVID-19の影響から豚肉の生産量の回復が遅れている。 5月27日より豚生体の輸入を解禁するが、中国からの豚肉需要もあり豚肉価格は継続的に上昇
 青果品	国境封鎖により 青果品など中国向け 輸出が激減	- 中国との国境付近、またメコンデルタ地域などで生産される農産物の中国向け輸出が落ち込む - 青果品、水産品、コショウ、ゴムなど、2020年第1四半期の輸出額は前年同期と比べて大幅に減少
 トウモロコシ	家畜飼料産業の生産・ 販売減でトウモロコシの 需要が下落	- アフリカ豚熱の影響とCOVID-19の影響からトウモロコシなど家畜飼料需要が継続的に落ち込む - トウモロコシ消費量は、1540万トン（3月時点）から1485万トン（10月）へと、消費量が減少
 労働者	労働力不足による 収穫量への影響	- 農場の労働力不足と輸送制限により、生産と供給に影響 - 植え付けや収穫時期の遅延から通常の収穫量が確保できない可能性

3. COVID-19により顕在化したFVCの課題 3.3 農業生産

中国との国境閉鎖、輸出先の規制等により北部、メコンデルタ地域などの農家に大きな打撃
販売先となる新たな市場を探すことが農業・水産生産の課題と考えられているが品質の向上が課題

ベトナムの地域セグメント



Development of New Market for farmers in Vietnam

- ベトナムの主要輸出先は中国である。COVID-19により、中国との国境近辺の北部の農家が最も大きな影響を受けた
- 国境の閉鎖期間は、輸出用の農作物を国内市場に流通させる必要があり、結果供給過多の状況に陥った。この状況は、2021年の第四半期まで継続されると予測している
- ベトナムは、国民の大半が農家であることから、農家の収入維持において、販売先となる新たな市場を継続的に探す必要が長期の課題と考えられているが、グローバル基準の品質に至っていないのが現状

Trade Marketing Director, Local Trading firm



地域性と主要農産物

紅河デルタ地域	：首都ハノイを擁し、主要農産物は米、豚など
北部丘陵山岳地域	：丘陵や山地が多く、主要農産物は茶、コーヒーなど
北中部・中部沿岸地域	：低地では米、高地では茶、コーヒーなど
中部高原地域	：高知が多く、主要農産物は米、野菜、牛乳など
南東地域	：最大都市ホーチミンを擁し主要農作物はゴム、大豆、果樹など
メコンデルタ地域	：国内最大の米生産地域、その他、果樹、豚肉など

3. COVID-19により顕在化したFVCの課題 3.3 農業生産

参考) ベルギーとベトナムの両国政府は、長年に渡り現地農家の生産能力と安全な野菜作りから、生活水準の向上を目指す支援を行っている

- ベトナム農家に安全な野菜作りを行う技術を支援することで、野菜に付加価値を付け農家の生活水準と収入向上を同時に目指す
- ベルギーのトコルト協会は、数十年に渡って同取り組みを支援し、国の農業の発展に貢献している。



3. COVID-19により顕在化したFVCの課題 3.4 保管&運送

船会社の減便の中、輸出が急増しコンテナと輸送機器不足が深刻化。船員や通関業務員の安全対策により入港・通関業務が遅延。輸送料金は高騰。また道路輸送に偏重するリスクが浮き彫り



保管&運送への影響

通関業務の遅れと 港の渋滞により 輸送が遅延

- 昨年5月よりデジタル機器を中心とした貨物が急激に増加。一方で、船員や関連従事者の安全対策から人員制限により通関業務が遅延し、港が渋滞し本船の遅延多発
- ホーチミン・カットライ、カイメップの両港で平均3~4日の本船の遅延発生

冷凍冷蔵倉庫の不足

- ロックダウンにより食品需要が落ち込み、水産加工物等の輸出が滞り、輸入品の在庫が増え多くの倉庫がフル稼働
- また、伝統小売が根強く残っていたベトナムでは、消費者の多くは精肉や水産品を生鮮市場で購入していたが、COVID-19の影響により、保冷管理されたミニマート等にて購入する傾向が増加。冷凍冷蔵倉庫の需要が更に増加

コンテナと輸送機器不足 の深刻化

- 各社、減便していた船便を増便し対応するが、送り出したコンテナの回収に通常以上の時間が掛かり、深刻なコンテナと輸送機器の不足状態が続く
- 各社で争奪戦となり輸送コストが上昇傾向にある

道路輸送に偏重すること への懸念

- オンライン需要の増加により、ラストワンマイルの配達会社は配達注文の急増、対応能力の限界に達している
- 物流が道路輸送に偏重していることから、感染流行地の閉鎖や各省市間の移動が規制されることによるオペレーションへの影響が懸念される

3. COVID-19により顕在化したFVCの課題 3.4 保管&運送

参考) COVID-19の影響により保冷管理されたスーパーマーケット、ミニマート等にて購入する傾向が増加
卸・小売業者を中心に冷凍冷蔵倉庫や保冷トラックの必要性が上がっている



食品衛生管理に対する意識の高まり

- Although traditional grocery shopping through local markets and independent stores dominates Vietnam's grocery industry, modern channels are expanding rapidly due to consumer's food safety concern and improvement of hygiene practice during the COVID-19 pandemic.
- The consumer's behavior of buying the fresh foods items such as meat and seafood from supermarket / mini mart will remain after the COVID-19 impact.
- The refrigerated facilities such as cold storage and refer trucks demands are definitely increasing since COVID-19.

Trade Marketing Director, Local Trading firm



参考) 倉庫大手GLPは、ベトナムにて現地企業と約15億ドルの合併会社を設立

Warehousing giant GLP launches \$1.5bn joint venture in Vietnam

Singapore company bets on COVID success story as trade moves from China

2020/10/16

The big logistics company sees huge growth potential in Vietnam, a country with a dynamic population that has had success halting the spread of COVID-19.

- Asia's biggest warehouse operator GLP is debuting in Vietnam through a \$1.5 billion joint venture, betting that demand for logistics services will rise in Southeast Asia as brands diversify their supply chains away from China.
- The company will develop three facilities with Vietnam's SEA Logistic Partners, or SLP. The partners plan to develop a total of 335,000 sq. meters of land around Hanoi and Ho Chi Minh City, according to GLP.
- The warehouses will be GLP's first in Southeast Asia. Vietnam has become attractive due to its ability to tame the spread of COVID-19 -- it has so far dealt with 1,124 cases and 35 deaths -- and keep its economy mostly open this year. Its relative success against the pandemic has helped Vietnam attract investors leaving China as they try to avoid the crossfire from the Sino-American trade war.



3. COVID-19により顕在化したFVCの課題 3.4 保管&運送

参考) ベトナム国内のビール輸送で内航船使用開始 (2020年08月17日)

第2波など今後の感染拡大防止策においても配送ルートが多様化は得策と考えられる

- サッポロホールディングス(株)のグループ企業であるサッポロビール(株)は、物流部門での環境負荷の低減および長距離トラック輸送の削減を目的に、ベトナム南部にある「サッポロベトナム ロンアン工場」(注1)とベトナム北部との間の輸送において、2020年7月1日より、ベトナム国内内航船の使用を開始。

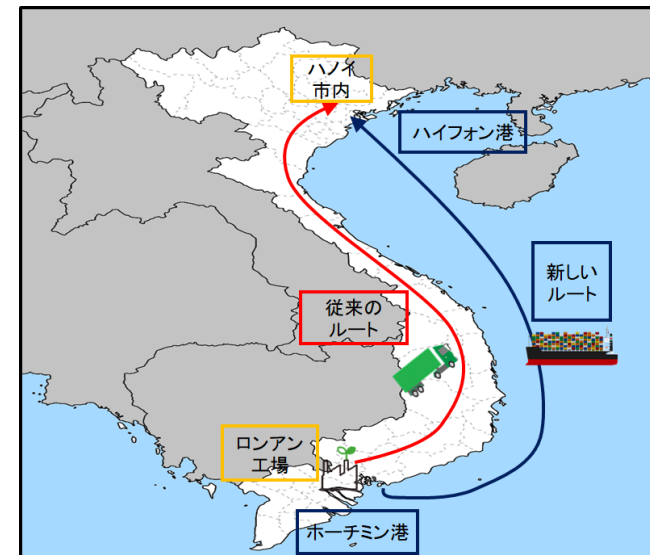
従来、ロンアン工場(注1)からベトナム北部へ向かうビールは北部の物流拠点まで全て陸路でのトラック輸送としていたが、今回、陸路の大部分を海路に切り替え、ロンアン工場(注1)からホーチミン港を経由し、ハイフォン港まで内航船を使うルート(注2)での輸送を新たに開始。

この取り組みにより、年間のCO2排出量を約450t(従来比で約64.5%)削減できると見込んでいる。

サッポロビール社は、日本国内において世界的に関心が高まっている温室効果ガス対策や、長距離トラック輸送のドライバー不足に伴う物流インフラの逼迫に対して、環境にやさしく持続可能なモーダルシフトの取り組みを進めていく。今回、日本国内で培った物流ノウハウをもとに国を超えて新たな輸送体制を構築することで、さらなる持続可能な社会への貢献を目指す。

(注1) 日本のビールメーカーとして初のベトナムでの工場建設を経て、2011年11月24日竣工。

(注2) ロンアン工場からホーチミン港、およびハイフォン港到着後の倉庫から物流拠点までの移動はトラック輸送となる。



3. COVID-19により顕在化したFVCの課題 3.5 食品加工

食品加工においては、保存型の加工食品（冷凍食品や缶詰製品）の需要が急増
加工用原材料の高騰と従業員の安全対策の徹底から国内・国外の需要量の確保に苦戦



食品加工への影響

テーマ	影響	内容
供給側	加工用原材料の調達への影響	- 航空便を中心に減便され、加工工場にて原材料が届かない・遅延する事態に発生。加工工場は船便への変更など調達ルートの見直しを迫られた - マサングループでは、中国からのヌードルの供給が一時ストップ。材料の不足から加工工場では生産ラインを一時ストップさせる事態が発生
	加工用原材料の枯渇と価格の高騰化	- 特に、昨年末より続くアフリカ豚熱（ASF）とCOVID-19の影響により豚肉が品薄、価格が高騰 - 輸入先の国における輸出規制により原材料の供給に支障が発生
	安全対策の必要性によるコスト高	- 安全対策の徹底により一つの生産ラインに対しての人員を削減、シフト制にする必要あり - 定期的な工場の消毒、休憩時間（タイミング）の管理や食事場所の確保など経費を圧迫

COVID-19の影響により食材の安全性保証への関心が高まる

国内最大の農業生産・食品製造メーカーマサングループは、豚肉の自社ブランド化を発表



食品加工への影響

テーマ	影響	内容
需要側	冷凍食品や インスタント食品の ニーズ拡大	- シーフードや肉など冷凍食品、缶詰製品やチャーハンやチキンステーキなどのインスタント食品の需要が急増 - コロナの影響により外出が制限されるなか、食材を一定量ストックする傾向が誕生
	食材の包装形態 への嗜好変化	冷凍や処理済みの肉より、市場で売られている生肉が新鮮とされてきた文化であったが、COVID-19の影響を受け、パッケージされた食材や処理済みの肉を好む人々が増加
	食材の安全性 保証への関心向上	- 食材の安全性、衛生管理、トレーサビリティによる食材の保証などの関心が富裕層を中心に向上 - 国内最大の農業生産・食品製造メーカーマサングループは、豚肉の自社ブランド化を発表

3. COVID-19により顕在化したFVCの課題 3.5 食品加工

参考) 消費者の食材の安全性保証への関心の高まりを受け、国内最大の食品製造メーカーマサングループは、トレーサビリティの徹底を強調する為、豚肉の自社ブランド化を発表

Masan Group sets sights on branded meat

By Nam Anh, Hung Le July 25, 2019 | 09:44 pm GMT+7

Vietnamese food and agricultural giant Masan has renamed a subsidiary to focus on selling branded pork products. The subsidiary, Masan Nutri-Science (MNS), Masan Group's animal nutrition division, established in 2015, will now be known as Masan MEATLife (MML).

This is the first step in the group's new strategy of switching from agricultural products to fast-moving consumer goods (FMCG), like providing branded packaged meat, a Masan representative told *VnExpress*.

The company wants to be the top producer in this market within the year, the representative added.

By 2022, MML expects branded meat products to contribute 50-70 percent of its revenue, as consumers move to meat products guaranteed by brands, it said in a statement.

Masan Group also plans to make the company go public later in 2019 on UPCoM, an exchange for unlisted public companies that allows them to sell shares without having to list on Vietnam's main exchanges.



3. COVID-19により顕在化したFVCの課題 3.6 卸・小売

農家の多くはスマートフォンからFacebook等のオンラインのマーケットプレイスを介し、農作物の販売開始
卸、小売、宿泊施設および飲食店サービス部門の主な事業者が同年11月にビジネスを再開



卸・小売への影響

食品・外食産業 の売上減少

- 営業規制により、本年7月までの食品・外食産業の売上は、281兆ドン（121億米ドル）前年比16.6%減
ホーチミン市では、45.1%減、ダナン市では24.5%減、ハノイ市では18.9%減。多くの小売業者は、レンタルコストが負担となり店舗の閉店に直面
- 主に卸売、小売、車両メンテナンス事業者を中心に、約5,300の事業者が11月に営業を再開
また、宿泊施設および飲食店サービス部門では、約300社が11月に事業を再開するが、倒産・廃業も多数存在

伝統リテールから モダンリテール そしてオンラインへ

- 市場などの伝統リテールにて食材を購入することを好む傾向が高かったベトナムだが、COVID-19の影響を受け衛生管理の整ったスーパーマーケットなどモダンリテールの利用に移行
- スーパーマーケットが提供するオンラインサービスなど、消費者の購買チャネルや様式の現代化が急激に進展
- 電子商取引の反映により、実質店舗が閉鎖されていくなか、コンビニエンスストアや薬局、ECなどの商業形態で商機が拡大
政府は、電子商取引（EC）に対する課税を強化する方針を提示

卸・小売業者 販売形態の変化

- スーパーマーケットのVinmart、Big C、Aeon Vietnamは、オンラインのショッピングサイトを立上げ自社で宅配サービスも提供
- ロックダウンで収入が断たれた人たちへの食糧支援として、政府は非接触型のお米のATMを各地域に設置
- COVID-19の影響により、農作物の価格や流通網が一時混乱、農家の多くはスマートフォンからFacebookやZaloなどオンラインのマーケットプレイスを介し、農作物の販売を開始

3. COVID-19により顕在化したFVCの課題 3.6 卸・小売

参考) COVID-19の影響により、ベトナムの消費者の多くはオンラインショッピングへシフト

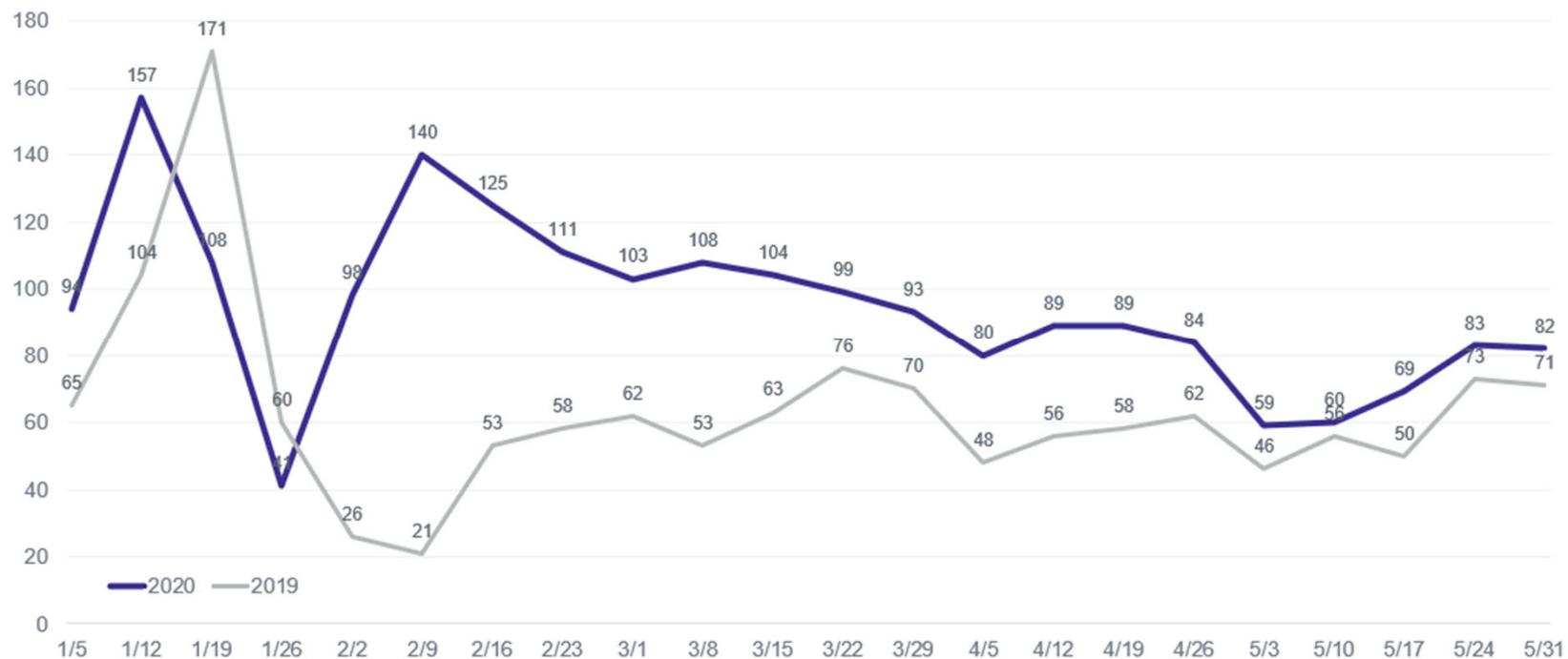
Criteo: Vietnamese consumers turn to online shopping amidst COVID-19 pandemic

14:57 | 13/06/2020

Criteo's research uncovered a definitive increase in online sales transactions. This may be attributed to the shift in shopper behaviour as consumers observe social distancing.

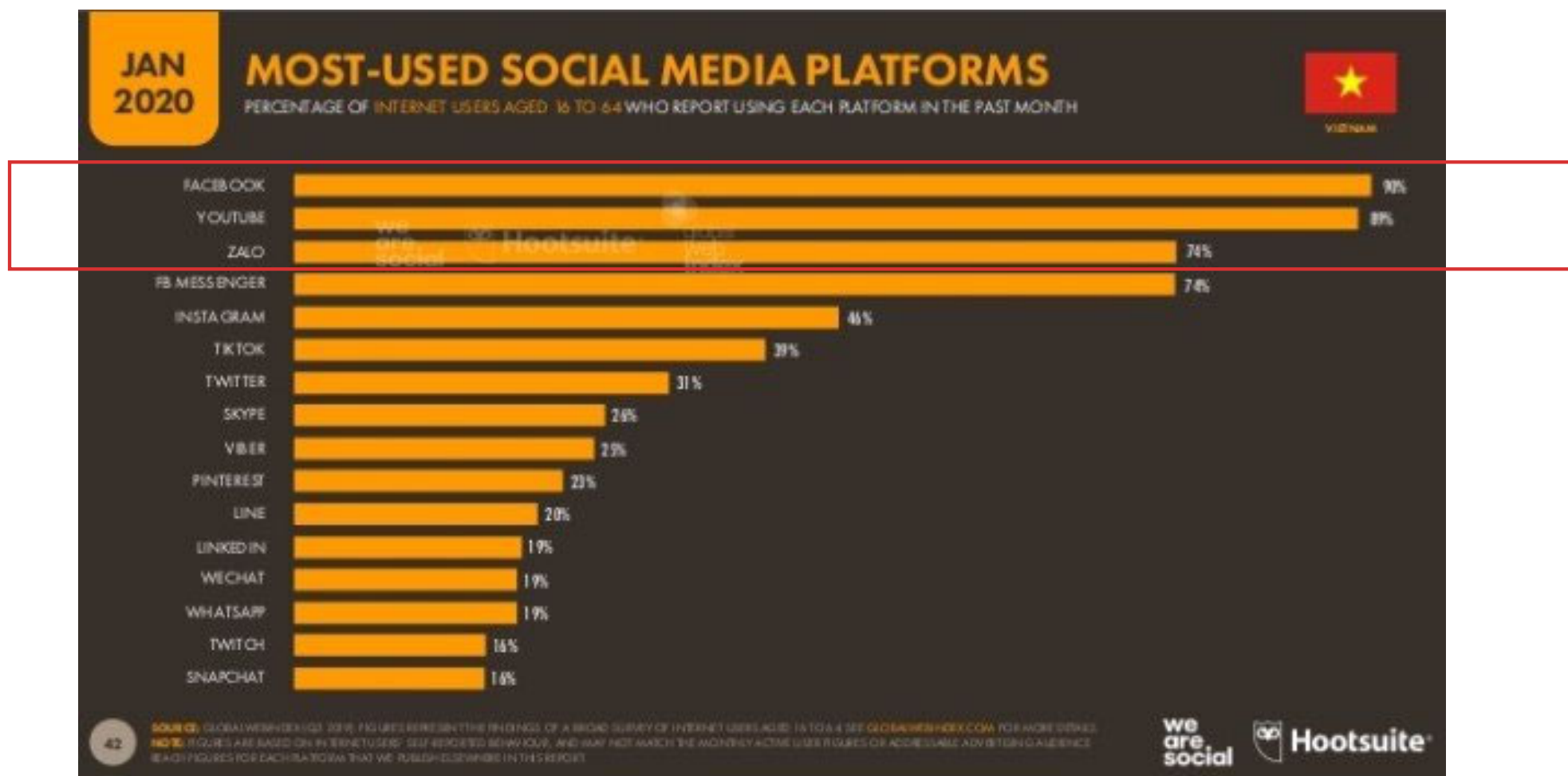
The research also indicates that food and beverage remain strong business. Particularly, at-home cooks stock up more non-perishables – items like pasta and noodles, condiments, and baking supplies – which may last longer as people adhere to self-isolation rules.

Vietnam. Indexed Weekly Sales, 2020 compared to Average in January 1-28, 2019



3. COVID-19により顕在化したFVCの課題 3.6 卸・小売

参考) 2020年1月におけるベトナムで最も利用されているソーシャルメディアをを活用した
オンラインプラットフォームとして、FacebookとZALOが上位を占める



3. COVID-19により顕在化したFVCの課題 3.7 消費

COVID-19は消費者の食品への安全性意識が高まり、市場から衛生管理の整ったスーパーマーケット等が好まれ始めた。また、購買チャネルのデジタル化も進み農家から直接購入する傾向も高まる



消費への影響

購買チャネルへの変化

- 市場などの伝統リテールにて食材を購入することを好む傾向が高かったベトナムだが、COVID-19の影響を受け衛生管理の整ったスーパーマーケットなどモダンリテール、また、実質店舗からオンラインサービスへと移行
- 各社、スーパーマーケットのVinmart、Big C、Aeon Vietnamは、オンラインのショッピングサイトを立上げ自社で宅配サービスも提供
- 消費者の傾向として、COVID-19の終息後もEコマースを継続的に利用する消費者が多い一方で、肉や魚と言った生鮮食品に関しては、オンラインよりスーパーマーケットやミニマートにて実際に見て購入することを好む消費者が多い
- 一部の消費者は、新鮮な食材を求めてFacebook等を介し農家や漁師などから直接購入するケースも増えている

購買商品の変化

- COVID-19により、生鮮食品や食料品、その他日用品など在宅勤務と家庭での自炊に向けた商材が売れ筋に。
- また、COVID-19の影響により消費者の食品の安全性、衛生管理、健康意識が高まり、健康食品、有機食品の需要が増加
- アルコール飲料は、政府の飲酒運転への厳罰化に加えCOVID-19の影響により需要が更に減少、2020年上半期の収益率を前年比40~50%と大幅減へ。大手醸造業者（ハイネケンなど）は外資企業であることから政府の支援対象外

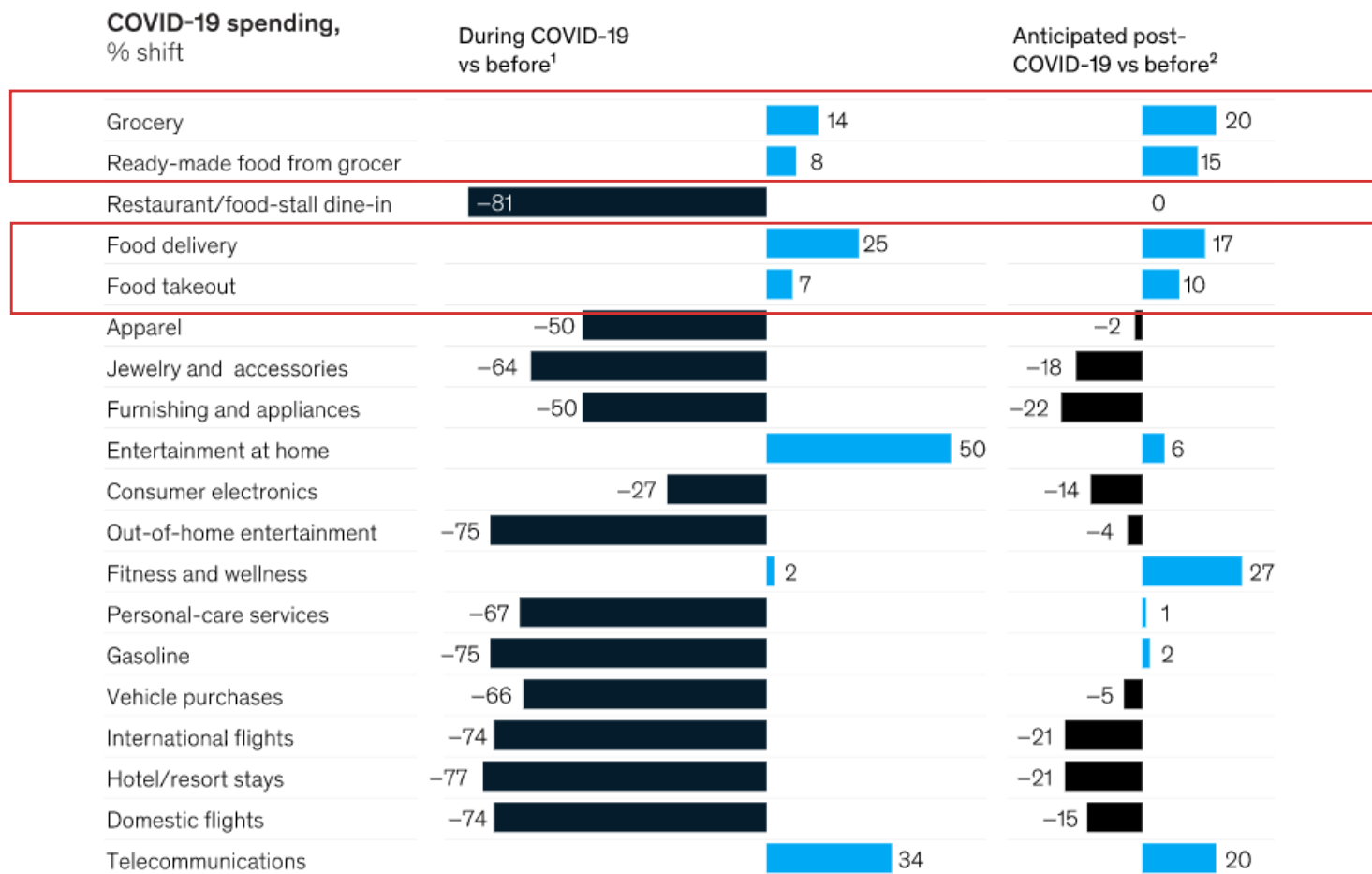
消費者の経済状況への変化

- 2020年4月に実施された消費者調査の結果、ベトナム人の2/3は、COVID-19の影響により収入がダウンしたと回答
- 消費者の多くは浪費をしないよう消費に消極的になっている

3. COVID-19により顕在化したFVCの課題 3.7 消費

参考) COVID-19の影響により消費者の多くは収入が減り、支出の多くが生活必需品へとシフト
また、外食からフードデリバリーやテイクアウトを利用した内食へ

In multiple sectors, Vietnam consumers anticipate decreased spending even after COVID-19.

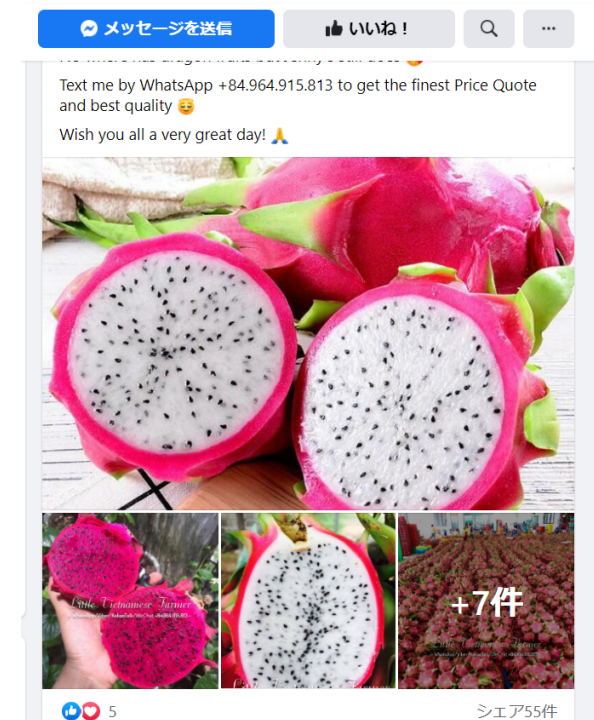


3. COVID-19により顕在化したFVCの課題 3.7 消費

参考) 消費者は新鮮な食材を求めて農家からオンラインで直接購入

- ベトナムの農家は、スマートフォンを介して農産物を販売
- COVID-19の影響により、Facebookのプラットフォームを利用し消費者に直接農産物を販売する農家が増加

facebook



ベトナム

1. はじめに
2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
3. COVID-19により顕在化したFVCの課題

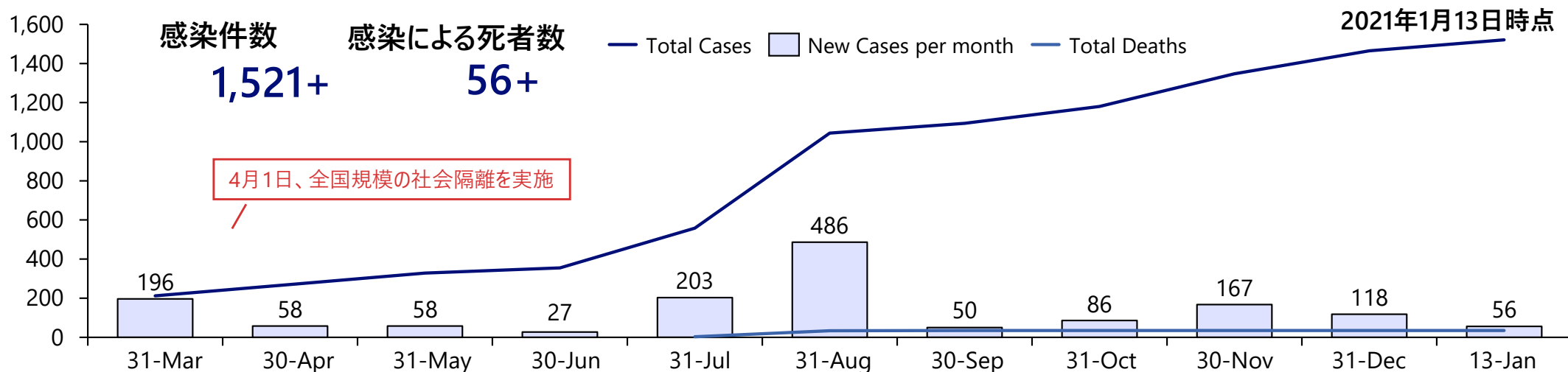
4. 現地FVC 再構築に向けた動向

5. ビジネス機会の方向性仮説
6. 日本が貢献できる領域仮説
7. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告
8. 事業構想案

4. 現地FVC 再構築に向けた動向 4.1 感染状況と感染拡大防止策

新規感染者数の拡大を、政府の感染拡大防止策により 早期より見事に抑制させた新型コロナウイルス感染対策において優等生の国

COVID-19感染状況と政府の対策情報



感染拡大防止策

渡航制限

- 3月22日、ベトナムに入国するすべての外国人の入国を停止
- 3月25日、国際線の運航を停止
- 3月26日、ハノイ、ホーチミンを出発する各地行き航空便を制限

経済活動制限

- 3月28日、集会の制限、一つの部屋での20人以上の会議・行事の制限、職場・学校・病院の外部での10人以上の集合の制限、商業サービス活動の一時休止

行動制限

- 3月25日、外出の最大限の制限を要請
- 4月1日、全国規模の社会隔離を実施（一部を除く、全ての国民は自宅待機）

- 5月8日、公共交通機関（飛行機、バス、船、列車など）における制限の緩和、間隔・座席数の制限を解除
- 11月1日、優先往来制度（ビジネストラック：ベトナム滞在14日間未満）の適用を開始

- 4月23日ハノイ市：感染予防策を確保した下で営業再開
- 4月30日ダナン市：観光地における店舗等一部営業再開

- 5月8日、商業・サービス施設の営業再開、間隔制限の解除、スポーツ活動や大人数が密集する活動の再開

4. 現地FVC 再構築に向けた動向 4.2 政府による施策

政府は、ロックダウン前の経済刺激策において、農業再編計画において農家や水産業に対して成長促進への支援策や農業災害補償保険の提供など実施

ロックダウン前の経済刺激策

対象	施策	概要	インパクト
農家	農業再編計画 2017-2020	- 農業部門では、2020年までに3%のGDP成長率を目指す 例) 食品の安全性を確保するための食肉処理システムの再編成など - 水産部門では、2020年までに4.5~5%のGDP成長率を目指す 例) 損失を減らすために加工施設と貯蔵施設を近代化する投資等	農業活動促進 FVC 影響 – 農業生産
農家	農業災害補償保険	- 貧しい農家の場合は、最大90%が保険でカバーされる (2018年6月) - 貧しい農家以外 (対象外の場合)、最大20%の保険が適用可能 - 農業機関は、協同組合として運営されている場合、保険料の最大20%適用	農家の運転資金増加 FVC 影響 – 農業生産

4. 現地FVC 再構築に向けた動向 4.2 政府による施策

COVIDの危機に対処するため、ベトナム政府は農業セクターに対して広範な経済刺激策を発表

COVID-19以降のベトナムの経済刺激策

対象	施策	概要	インパクト
農家	支払いの遅延とローン条件の引き下げ	政府は、COVID-19パンデミックの影響を受ける企業、個人、家計事業に対し、付加価値税、法人所得税、個人所得税、土地賃貸料の支払いを延期することを許可	農家の運転資金増加
	食料の備蓄	2020年3月27日、政府はCOVID-19パンデミック中の国内食品の利用を確保するため、8万トンの水田(unhusked)米を含む27万トンの米を備蓄する計画を発表	農家からの購入
	輸出支援	- 政府は、EUへの米輸出業者を支援する打開策として、 - EU・ベトナム自由貿易協定(EVFTA)を最大限に活用し新しい流通チャネルの開拓を目指す	ベトナム農産の需要確保
	農業の耐久性向上	- 農業の耐久性を高める措置を国際パートナーと共に強化すると宣言 - 生活保護、社会福祉政策の提言、食料安全保障政策、農業部門の能力強化、農産物のバリューチェーン上の問題を重要課題とした、農業と農村開発のためのロードマップの構築を目指す	農業の耐久性向上
	農業関係「中長期ビジョン」	- 日本とベトナムの両政府がベトナム農業の発展に向けて議論する「日越農業協力対話」のハイレベル会合を開催 - 両国の出席閣僚が農業関係のインフラ整備や民間企業投資を促進するための「中長期ビジョン」に署名	インフラ整備 民間企業投資の促進
	農業用ドローンに対する輸入税などを優遇	ベトナム税関総局は、農業用ドローンに対する輸入税（関税）などの優遇を決定。ドローンの利用を推進して農業生産性を向上させる狙い	農家の運転資金増加

COVID-19対応事例) ホーチミン市を始めとした8つの北西省間にて観光開発を共同促進

観光・航空産業に対する支援

ホーチミン市とハザン、ホアビン、ラオカイ等8つの北西省間の観光開発を促進

観光や航空産業の勢いを回復するために、観光調整やプロモーションキャンペーンを開発



Key Initiatives

- 1) 11月14日にベトトリ市で会議が開催され、ホーチミン市とハザン、ホアビン、ラオカイ等8つの北西省間の観光開発を促進
- 2) ベトジェットは、需要を刺激し、観光や航空産業の勢いを回復するために、観光調整やプロモーションキャンペーンを開発するために、地方や都市に同行することを約束
- 3) ホーチミン市観光局によると、ホーチミン市と他の地域との間のこれらの調整協定の署名は、地方自治体、州政府機関、協会、観光業における企業との関係における新たな発展段階を提示

Key Stakeholders Involved

ホーチミン市とハザン、ホアビン、ラオカイ等
8つの北西省間の観光

COVID-19対応事例) バイエルベトナムと政府連携による小規模農家支援

農家に対する支援

より良い農場、より良い生活

バイエルベトナムは、地元の自治体や地元企業との協力しベトナムの小規模農家を支援



代表者が地元の農業拡張センターに贈り物贈呈

2020年9月末に開始された「より良い農場、より良い生活」イニシアチブは、80,000人の農家に地元のニーズに合わせたケアパッケージを提供することを目的とし、バイエルの種子、作物保護製品、関連するトレーニング資料の組み合わせが含まれる

Key Initiatives

- 1) メコンデルタの小規模農家が農業活動を維持・回復を支援。干ばつ、海水の侵入、COVID-19パンデミックなどの不利な状況において持続可能な方法で効果的に対応し、農業製品が食品安全と国際基準を満たすことを保証することを目的
- 2) 米・トウモロコシ栽培における農業拡張トレーナーや農家の知識を向上させ、知識の伝達や良い農業慣行の実践を支援

Key Stakeholders Involved



Bayer
Vietnam



Ministry of Agriculture
and Rural Development



Grow
Asia



Natural Agriculture
Extension Center

COVID-19対応事例) THグループによる医療機関への支援

看護婦、医師、医療関係者に対する支援

THグループ、新鮮な牛乳を寄付

ベトナムの乳製品生産者THグループは、COVID-19と戦う看護師、医師、その関係者に自社製品の人工呼吸器と牛乳を寄付



THグループは、無償で自社製品の牛乳、医療防護服の購入用寄付金、人工呼吸器を寄贈



Key Initiatives

- 1) THグループは3月10日に、COVID-19と最前線で戦う看護師、医師、その関係者に自社製品の牛乳を寄付
- 2) また、医療従事者のための医療防護服を購入するための寄付金、人工呼吸器を寄付し全国の最前線の医療従事者を支援
- 3) 現段階で寄付金額は、VND15bn (\$642,000) に達する見込み

Key Stakeholders Involved



THグループ

COVID-19対応事例) UOB銀行による投融資の加速化

ベトナムへの投資支援加速、UOB銀行11億ドル誘致へ


UOB


FIA
FOREIGN INVESTMENT AGENCY

Ministry of Planning and Investment
FOREIGN INVESTMENT AGENCY

Memorandum of Understanding Virtual Signing Ceremony

27 November 2020



From left:
Mr Wee Ee Cheong
 Deputy Chairman and CEO, UOB
Mr Sam Cheong
 Managing Director and Head of Group FDI Advisory and Network Partnerships, UOB
Mr Le Cong Dung
 Charge d'affaires, Embassy of the Socialist Republic of Vietnam in the Republic of Singapore



From left:
Mr Tan Weiming
 Charge d'affaires, Embassy of the Republic of Singapore in Hanoi
Deputy Minister Mr Tran Duy Dong
 Ministry of Planning and Investment of the Socialist Republic of Vietnam
Mr Do Nhac Hoang
 Director General, Foreign Investment Agency
Mr Harry Loh
 CEO, UOB Vietnam

1) シンガポールの金融大手UOB銀行は、アジア企業のベトナムへの投資を支援する取り組みを加速

- 2) 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、足元では同国経済も停滞しているが、引き続き事業機会が増えると判断
- 3) 現地の当局と連携して
地方都市への進出も促しながら、
11億米ドルの融資を実施



4. 現地FVC 再構築に向けた動向 4.4 第3国/国際機関による施策

COVID-19対応事例) 日本政府による医療機関の物的・金銭的支援

病院に対する支援

日本大使、COVID-19禍の影響を受けるベトナムの病院を支援

2020年8月から2022年1月までの18ヶ月間に20億円(1,880万米ドル)相当のODA助成金を分散させるメモに署名



Key Initiatives

- 1) 日本の山田多紀夫大使とグエン・タン・ロン保健大臣代理は、2020年8月から2022年1月までの18ヶ月間に20億円(1,880万米ドル)相当のODA助成金を分散させるメモに署名
- 2) これには、国立熱帯病病院、国立肺病院、ダナンC病院、国立血液学輸血研究所の4つの病院での医療機器のアップグレードが含まれ、COVID-19の予防と管理における能力を向上
- 3) 日本政府は、ベトナム政府が2020年春にマスク不足に直面した際に120万人以上のマスクで日本を支援。ベトナム保健省の役割を高く評価

COVID-19対応事例) 国際ドナーによる医療インフラへの補助

公衆衛生緊急対応センター（PHEOC）に対する支援

アジア開発銀行、新型コロナ対策でベトナムに60万USD支援

防護服を保健省傘下の中央肺臓病院に、医療設備を同省傘下の公衆衛生緊急対応センター（PHEOC）へ供与



Key Initiatives

- 1) アジア開発銀行（ADB）は11日、ベトナムに対し、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策に向けて60万USD（約6240万円）相当の物資による無償支援を実施
- 2) 保健省傘下の中央肺臓病院に50万USD（約5,200万円）相当の防護服、同省傘下の公衆衛生緊急対応センター（PHEOC）に、10万USD（約1,040万円）相当の医療設備を供与

Key Stakeholders Involved



ベトナム

1. はじめに
2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
3. COVID-19により顕在化したFVCの課題
4. 現地FVC 再構築に向けた動向

5. ビジネス機会の方向性仮説

6. 日本が貢献できる領域仮説
7. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告
8. 事業構想案

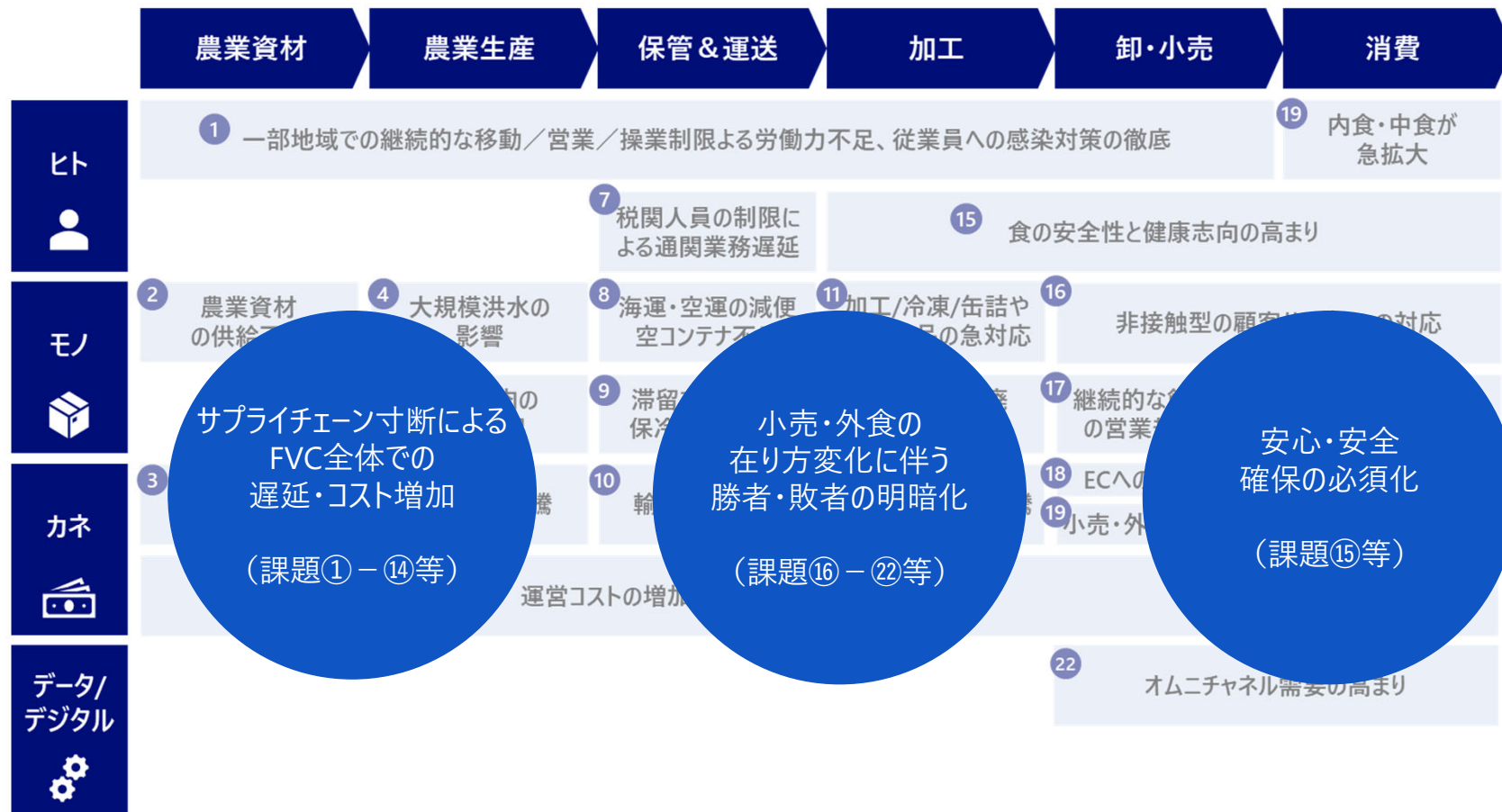
5. ビジネス機会の方向性仮説 5.1. ベトナムにおける3つのKey Issues

ベトナムにおけるFVC上の課題サマリ

■ 「3.1 ベトナムにおけるFVC上の課題サマリ」にて把握した20の課題は、大きく3つのKey Issuesに構成される

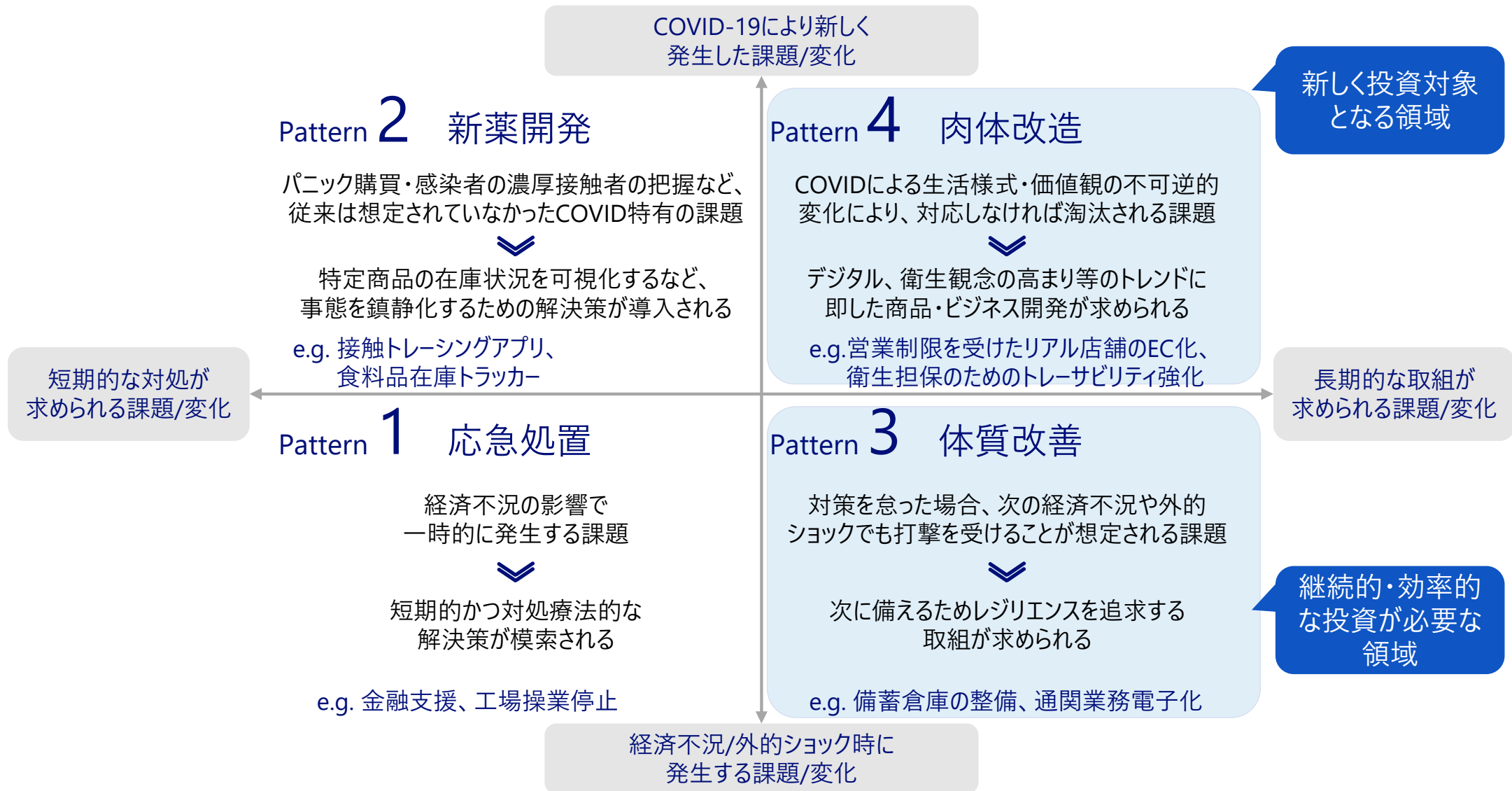
- サプライチェーン寸断によるFVC全体での遅延・コスト増加（課題①－⑭等）
- 小売・外食の在り方変化に伴う勝者・敗者の明暗化（課題⑬－⑳等）
- 安心・安全確保の必須化（課題⑮等）

COVID-19の影響により顕在化・加速が進んだベトナムにおけるFVC上の課題



5. ビジネス機会の方向性仮説 5.2 注力する課題分類「肉体改造と体質改善領域への投資」

COVID-19により発生した課題を、解決期間と問題の種類に基づき課題に対する対応策・ソリューション領域を4パターンに分類。今後発展が見込まれる「肉体改造」と「体質改善」への投資が特に求められる



参考) 課題と対応策・ソリューション領域の整理方法 (4パターンの分類)

対応策・ソリューションの分類

X軸	左側象限が短期的な対応が求められる課題/変化を、右側象限が長期的な取組が求められる課題/変化を表している。
Y軸	上側象限がCOVID-19により新しく発生した課題/変化を、下側象限が経済不況/外的ショック時に発生する課題/変化を表している。

■ パターン1：応急処置

経済不況の影響で一時的に発生する課題で、短期的かつ対処療法的な解決策が模索される領域。ソリューションの例は金融支援、工場操業停止などが該当する。

■ パターン2：新薬開発

パニック購買・感染者の濃厚接触者の把握など、従来は想定されていなかったCOVID特有の課題で、特定商品の在庫状況を可視化するなど、事態を鎮静化するための解決策が導入される領域。ソリューションの例は接触トレーシングアプリ、食料品在庫トラッカーなどが該当する。

■ パターン3：体質改善

対策を怠った場合、次の経済不況や外的ショックでも打撃を受けることが想定される課題で、次の外的ショックに備えるためレジリエンスを追求する取組が求められる領域。ソリューションの例は備蓄倉庫の整備、加工工程の機械化などが該当する。

■ パターン4：肉体改造

COVIDによる生活様式・価値観の不可逆的变化により、対応しなければ淘汰される課題で、デジタル、衛生観念の高まり等のトレンドに即した商品・ビジネス開発が求められる領域。ソリューションの例は営業制限を受けたリアル店舗のEC化、衛生担保のためのトレーサビリティ強化などが該当する。

5. ビジネス機会の方向性仮説 5.3 「肉体改造と体質改善」が求められる背景

グローバルでみると、以下のような事象が今後加速すると想定される

 : コロナ後に加速する事象

マクロ環境変化



政治・経済・地球環境

- E-1 グローバル化の進展
- E-2 食料生産地・収穫量の変化
- E-3 資源・食料問題の深刻化
- E-4 脱プラ要請の高まり



人口動態

- G-1 人口減少
- G-2 都市圏への集中・地方自治体消滅
- G-3 高齢者や移民の労働力活用



社会

- S-1 超高齢化社会への突入
- S-2 知的労働の更なる進行
- S-3 衛生状態の更なる改善
- S-4 労働形態の多様化



技術革新

- I-1 自動化技術の進化
- I-2 ライフサイエンス技術の進化
- I-3 バーチャルとリアル融合
- I-4 情報取得の簡易化

消費 及び 競争環境の変化



消費者

- 消-1 ヘルシー志向
- 消-2 冷蔵・保存食需要の増加
- 消-3 高齢化・要介護者の増加
- 消-4 購買・消費のスマート化
- 消-5 モノ⇒コト消費
- 消-6 ニーズの多様化
- 消-7 老後期間の延長
- 消-8 新たな喫食シーンの登場



食品メーカ

- 食-1 機能食・完全食
- 食-2 代替肉・タンパク質
- 食-3 サブスクリプション
- 食-4 家電連携
- 食-5 保存技術の高度化
- 食-6 ライフログとの連携
- 食-7 パーソナライズ
- 食-8 味・味覚のDB化
- 食-9 生産自動化
- 食-10 リアル店舗への進出



農業

- 農-1 トレーサビリティ
- 農-2 遺伝子組み換え食品
- 農-3 環境農業
- 農-4 地産地消
- 農-5 農業のオートメーション化



流通・小売・外食／中食

- 流-1 レシピサイト・動画
- 流-2 外食のEC・デリバリー進出
- 流-3 物流効率化・共同配送
- 流-4 自動最適物流
- 流-5 フードロス対応
- 流-6 デジタル・サプライチェーン
- 流-7 ミールキット
- 流-8 3Dプリンティング

5. ビジネス機会の方向性仮説 5.3「肉体改造と体質改善」が求められる背景

先進国では、内・中食シフトで、内食では購買～料理・食事の流れの変化や中食のワガママ化が進展
健康や免疫、カロリー効率に注目が集まる

コロナ禍で発生した事象

生活者の価値観・ライフスタイルの変化

食生活の変化

活動選択肢の縮小

外出自粛や店舗休業による
生活自由度の低下

グローバルサプライチェーンの
分断

生活者の行動歴の可視化・
ライフログの管理加速

経済不安の拡大

経済・消費の落ち込み

環境／協調意識の拡大

共通敵に対する連帯感・
仲間意識の醸成

社会環境・店舗環境の
改善意識の高まり

巣ごもり充実・ 再現志向

- ・外でやっていたことを在宅で
済ませようとする

健康志向

- ・巣ごもりにより健康や運動
の重要性を再認識する

予防志向

- ・コロナや未知のウイルスに感
染するリスクを防ごうとする

家族志向

- ・家族の大切さを再認識し
共有時間を充実させる

節約志向

- ・経済停滞の影響で節約を
意識する

デジタル・ バーチャル志向

- ・SNSで配信される動画・
レビューに影響を受ける

外食消費が縮小し、デリバリーが拡大

外食

外出自粛・移動制限により
大幅に縮小、内・中食にシフト



内食・中食が急拡大

内食

計画的まとめ買い＋家族で料理

1週間の献立を
決めて...



ECやスーパーで
まとめ買い...



家族で料理・
食事



中食

“おひとりさま”の中食利用 中食ニーズの多様化・ワガママ化



食の 選び方 の変化

健康食・ 免疫食



高コスパ食

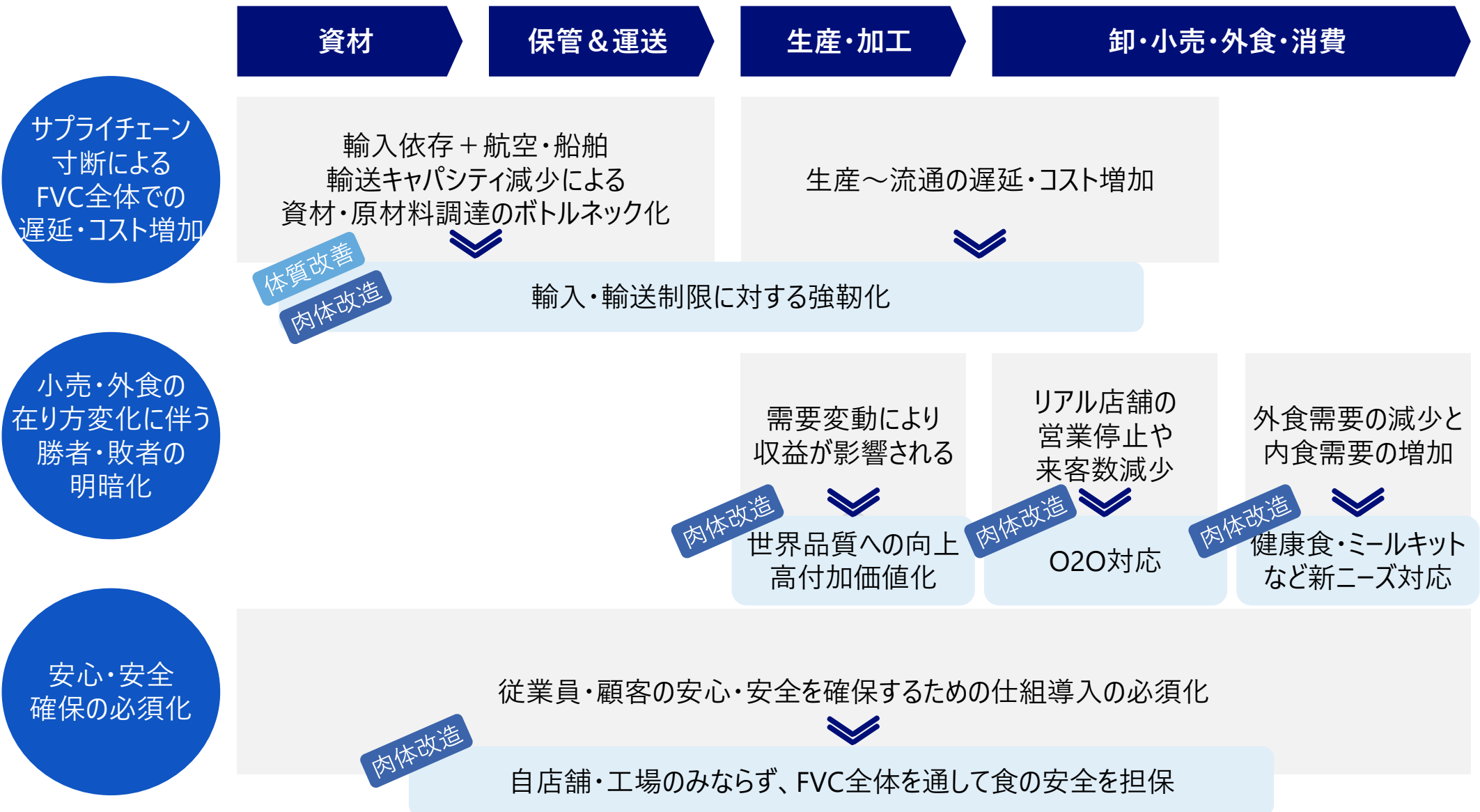


保存食



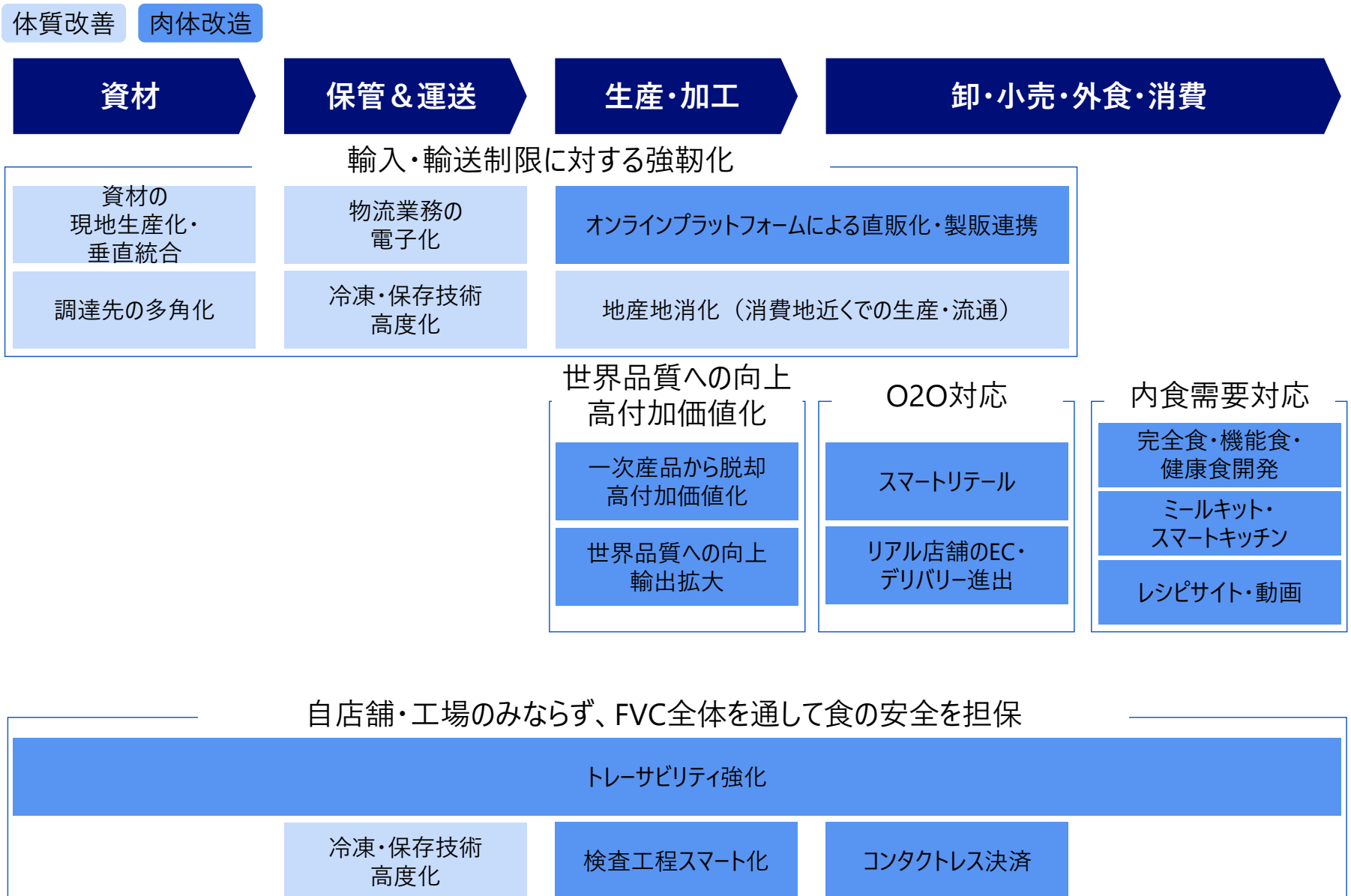
5. ビジネス機会の方向性仮説 5.4 主要課題の対応方向性

ベトナムにおいてはCOVIDにより発生した課題・変化を起点に、
「体質改善」・「肉体改造」に向かう取り組みが強化されていくと想定される



5. ビジネス機会の方向性仮説 5.5 投資が進む可能性のあるテーマ例

結果として、ベトナムにおいては下記のようなテーマで投資が進む可能性がある



ベトナム

1. はじめに
2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
3. COVID-19により顕在化したFVCの課題
4. 現地FVC 再構築に向けた動向
5. ビジネス機会の方向性仮説

6. 日本が貢献できる領域仮説

7. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告
8. 事業構想案

6. 日本が貢献できる領域仮説 6.1 投資領域に対する日本のソリューション

投資領域に対するソリューションとして以下が挙げられる

■ 課題1：サプライチェーン寸断によるFVC全体での遅延・コスト増加

- 農業資材・保管&輸送工程における輸入依存＋航空・船舶輸送キャパシティ減少による資材・原材料調達のボトルネック化の課題に対しては、輸入・輸送制限に対する強靱化が必要となる。必要となる課題解決の方向性としては、例えば資材の現地生産化・垂直統合、調達先の多角化、物流業務の電子化、冷凍・保存技術の高度化が挙げられる（肉体改造領域）。
- 農業生産・加工、卸・小売・外食・消費工程における生産～流通の遅延・コスト増加の課題に対しては、輸入・輸送制限に対する強靱化が必要となる。必要となる課題解決の方向性としては、例えばオンラインプラットフォームによる直販化・製販連携の他（肉体改造領域）、地産地消化（消費地近くでの生産・流通）が挙げられる（体質改善領域）。

■ 課題2：小売・外食の在り方変化に伴う勝者・敗者の明暗化

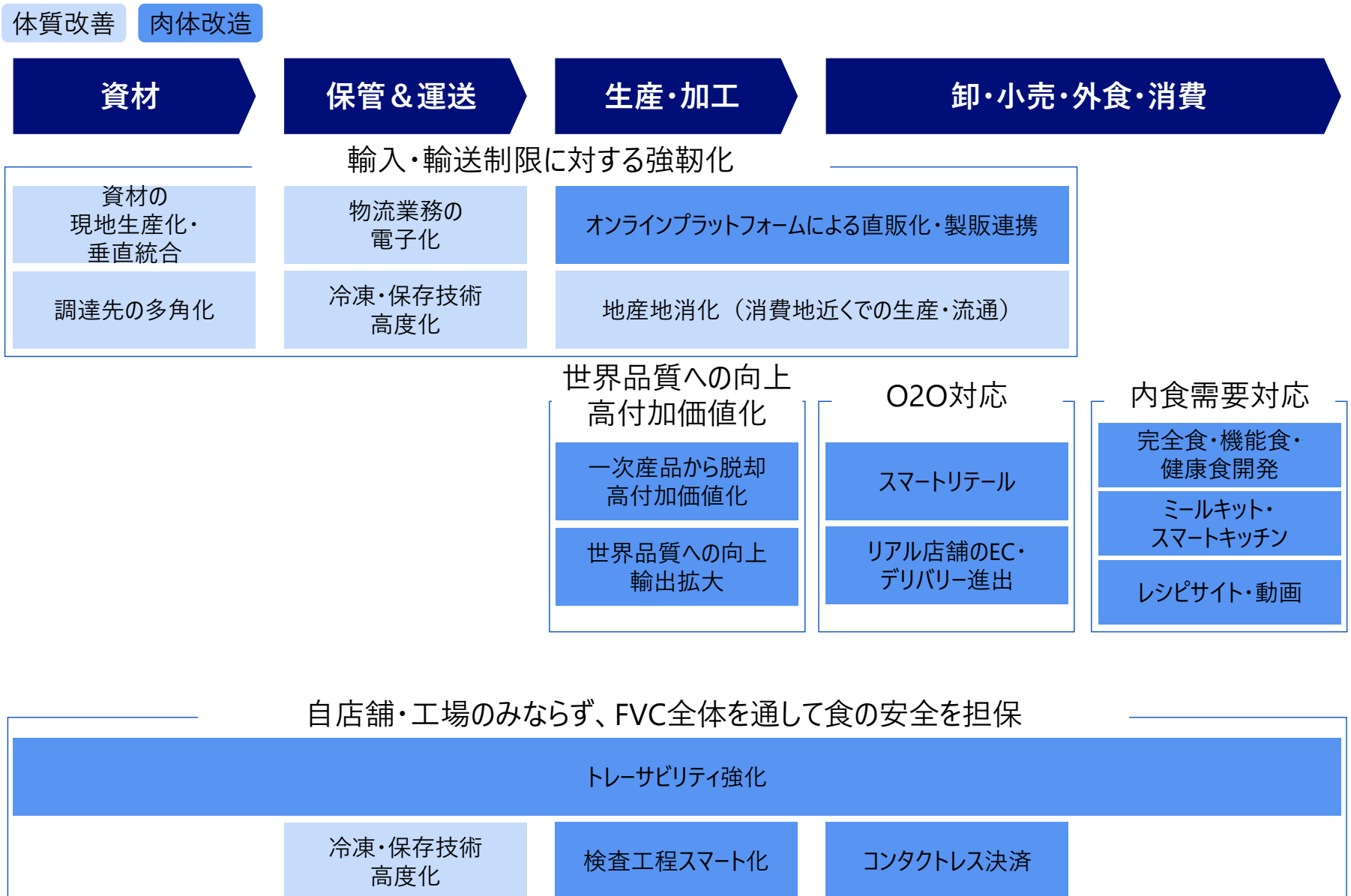
- 農業生産・加工工程における需要変動により収益が影響される課題に対しては、世界品質への向上高付加価値化が必要となる。必要となる課題解決の方向性としては、例えば一次産品から脱却への高付加価値化、世界品質への向上による輸出拡大が挙げられる（肉体改造領域）。
- 卸・小売・外食工程におけるリアル店舗の営業停止や来客数減少の課題に対しては、O2O対応が必要となる。必要となる課題解決の方向性としては、例えばスマートリテール、リアル店舗のEC・デリバリー進出が挙げられる（肉体改造領域）。
- 消費工程における外食需要の減少と内食需要の増加の課題に対しては、健康食・ミールキットなど新ニーズ対応が考えられる。必要となる課題解決の方向性として、例えば完全食・機能食・健康食開発、ミールキット・スマートキッチン、レシピサイト・動画が挙げられる（肉体改造領域）。

■ 課題3：安心・安全確保の必須化

- 農業資材から卸・小売・外食・消費のFVC全工程における従業員・顧客の安心・安全を確保するための仕組導入の必須化の課題に対しては、自店舗・工場のみならず、FVC全体を通して食の安全を担保することが必要となることが考えられる。必要となる課題解決の方向性としては、例えばトレーサビリティ強化、検査工程スマート化、コンタクトレス決済の他（肉体改造領域）、冷凍・保存技術の高度化が挙げられる（体質改善領域）。

6. 日本が貢献できる領域仮説 6.1 投資領域に対する日本のソリューション

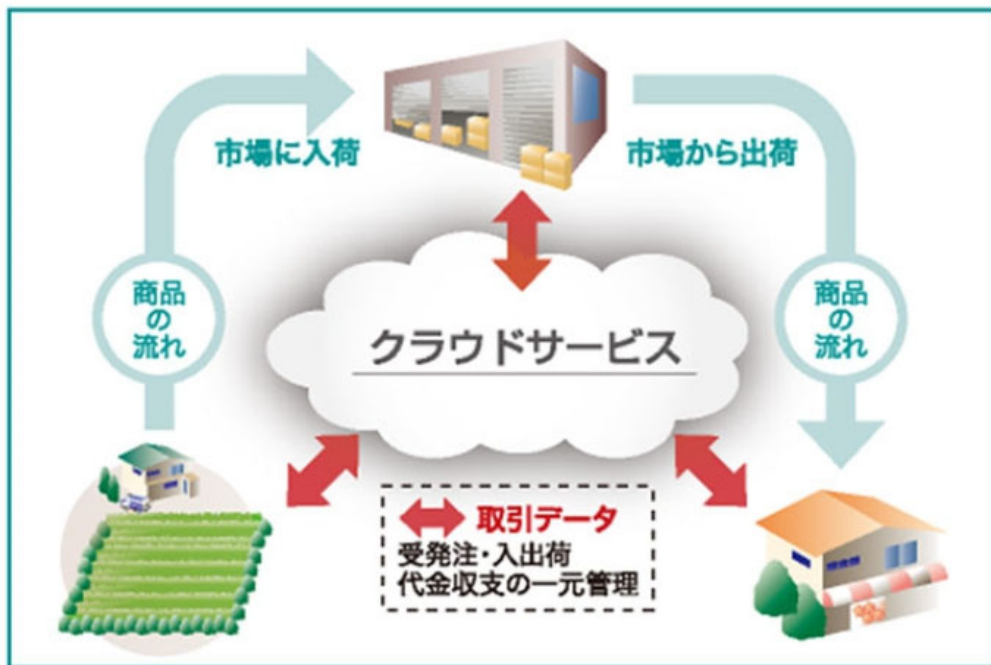
参考) 日本が貢献できる投資領域に対するソリューション例



6. 日本が貢献できる領域仮説 6.2 具体的なソリューション例

花き関連データをEDIシステムで管理することで、データ入力を省人化

EDI管理によるデータ入力省人化



基本機能

・受発注 ・入荷 ・相対 ・Web ・セリ連動 ・分荷 ・ラベル ・スマートフォン ・仕切書 ・販売伝票
・仮伝発行 ・市況報告 ・売掛管理 ・奨励金 ・買掛・受託支払い管理 ・電子帳票 ・統計 ・日計表
・月計表 ・JFコード ・バーコード ・EDI ・自動FAX

オプション機能

・表示セリ ・自動セリ ・自動分荷 ・仲卸支援

体質改善 肉体改造

資材	保管 & 運送	生産・加工	卸・小売・外食・消費
輸入・輸送制限に対する強靱化	スマート農機の活用や調達・販売のプラットフォーム利用		
コールドチェーン強化	O2O対応	内食需要対応	
FVC全体を通じた食の安全担保			

人手を介さない物流バーコードラベル

- 各種コード（日本花き取引コード、卸売会社コード、原産地コード等）の商品への紐づけは、従来は手書き出荷伝票から出荷情報データ入力を行うという人力での作業
- EDI（Electric Data Interchange：電子的データ交換）により人手を介さない物流バーコードラベルを発行

6. 日本が貢献できる領域仮説 6.2 具体的なソリューション例

直販モデルの構築により、地産地消化を促進しつつ、農家の市場アクセスを改善する

道の駅（直販モデル）

2018年のキャンペーン



体質改善 肉体改造

資材

保管 & 運送

生産・加工

卸・小売・外食・消費

輸入・輸送制限に対する強靱化

スマート農機の活用や調達・

販売のプラットフォーム利用

コールドチェーン強化

O2O対応

内食需要対応

FVC全体を通した食の安全担保

農産物の直売所

- 日本には「道の駅」と呼ばれる直販市場が存在。生産から流通までが垂直統合されたモデル
- タイでは活用実績があり、駐車場 やトイレ、飲食店、情報
- 施設、売店を完備し、24 時間営業するモデルを構築。売店では、一村一品（OTOP）製品、地方の特産品などを販売

6. 日本が貢献できる領域仮説 6.2 具体的なソリューション例

直販モデルの構築により、地産地消化を促進しつつ、農家の市場アクセスを改善する

流通プラットフォーム



体質改善 肉体改造

資材

保管 & 運送

生産・加工

卸・小売・外食・消費

輸入・輸送制限に対する強靱化

スマート農機の活用や調達・

販売のプラットフォーム利用

コールドチェーン強化

O2O対応

内食需要対応

FVC全体を通した食の安全担保

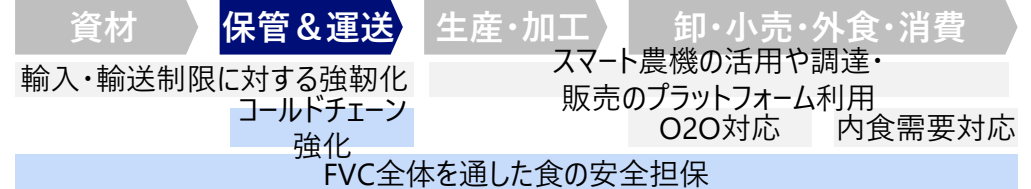
卸売市場の電子化

- いずみホールディングスの「日本卸売市場」では、インターネット上で、全国600ヶ所の仕入先・産地から動画配信された情報をもとにセリを実施するサービスが展開されている
- 流通作業量と取扱品目がデジタル化と情報共有は、流通数量と品揃えの情報が共有されることに等しく、生鮮品の新たな売り方創造につながるはず

昨今の緊急的な需要増への対応には、プレハブやコンテナ利用等の簡易型の仕組みも考慮可能か

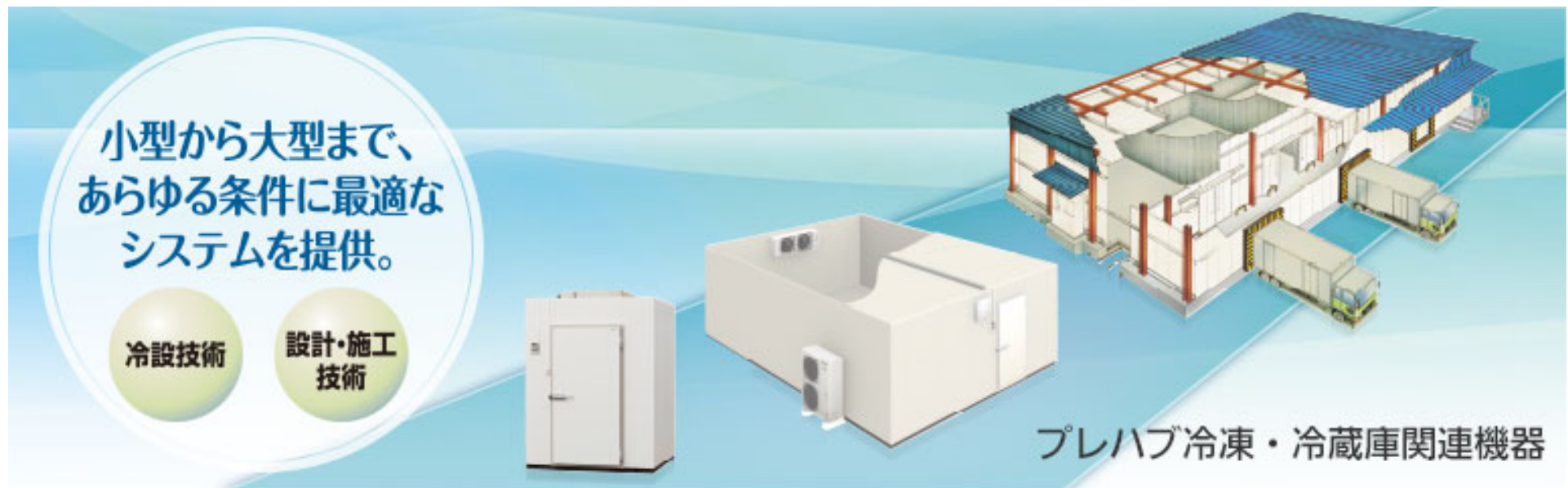
プレハブ・コンテナ等の簡易型倉庫

体質改善



技術概要

- 小型から大型まで、あらゆる条件に最適なシステムを提供
- パナソニックの冷却技術をフルに活用した周辺機器を組み合わせることが可能



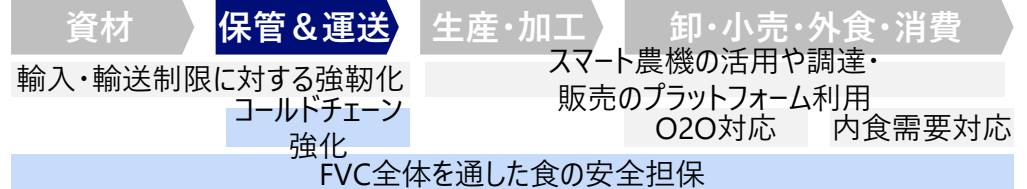
6. 日本が貢献できる領域仮説 6.2 具体的なソリューション例

輸送時や工場内での温度維持管理技術で産地・消費地をつなぐ一貫した食品のビジネスモデルを構築

産地・消費地をつなぐコールドチェーン



体質改善

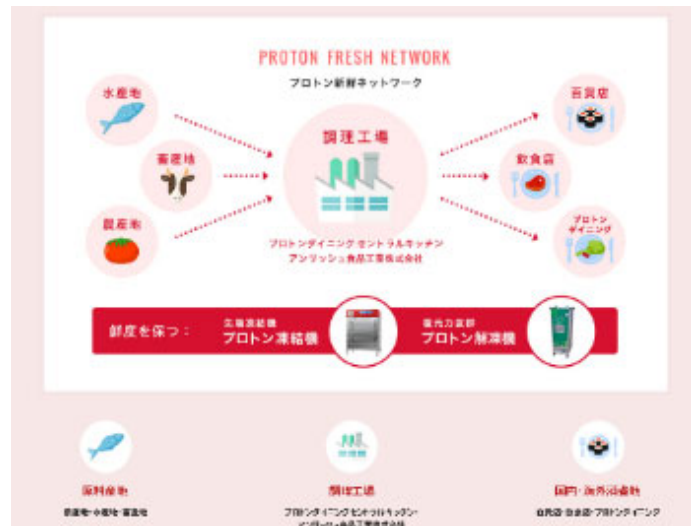


輸送段階の低温維持

- ・ 冷蔵倉庫用冷凍機の提供
- ・ 低温かつ空気組成制御が可能なCAコンテナ

調理工場での廃棄ロス低減

- ・ 凍結機、解凍機を調理工場に提供
- ・ 鮮度の高い産地加工品を安定的価格で提供可能に



6. 日本が貢献できる領域仮説 6.2 具体的なソリューション例

オンライン化の促進やデータの運用をする技術の発展・実装を支援

EC展開支援ツール



体質改善 肉体改造

資材

保管 & 運送

生産・加工

卸・小売・外食・消費

輸入・輸送制限に対する強靱化
コールドチェーン
強化

スマート農機の活用や調達・
販売のプラットフォーム利用
O2O対応 内食需要対応

FVC全体を通じた食の安全担保

ECマースサイトの立ち上げ

- ネットスーパー展開のボトルネックとなる「商品マスタ・在庫マスタデータの構築」を自動化
- 小売データの蓄積、活用が可能に

最適配送ルート設定の自動化

- ラストワンマイル配送網からAIが配送ルートを指示
- ネットスーパーで注文した食品を自宅までワンストップ配送

6. 日本が貢献できる領域仮説 6.2 具体的なソリューション例

食品と家電が連携し、家庭で簡単に本格的な味が楽しめるサービスを提供

IoT家電 + ミールキット

ボタンを押すだけでつくれる、
プレミアム料理キット



ホットクックで
らくらく調理♪



SHARP

家電メーカー



食品メーカー



グルメ情報サイト



ヘルシオのボタンを押すだけで
つくれる料理キット宅配サービス

体質改善 肉体改造

資材

保管 & 運送

生産・加工

卸・小売・外食・消費

輸入・輸送制限に対する強靱化

コールドチェーン強化

スマート農機の活用や調達・

販売のプラットフォーム利用

O2O対応

内食需要対応

FVC全体を通じた食の安全担保

手軽に調理可能なミールキットの開発・宅配

- ヘルシオ（調理器具）の利用者向けに、ネットで料理キットを注文、自宅を受け取り簡単に調理できるサービスを展開
- ぐるなびとの連携で、人気の高い日本料理屋やフランス料理店のシェフなどが監修したメニューを開発
- 食材の調達や加工は食品メーカーのタイハイが担当

6. 日本が貢献できる領域仮説 6.2 具体的なソリューション例

健康意識の高まりに対し、健康・未病領域も取り込むことで付加価値を向上させている

完全栄養食品



BASE PASTA



BASE BREAD



All-in PASTA/NOODLES



REAT

体質改善 肉体改造

資材

保管 & 運送

生産・加工

卸・小売・外食・消費

輸入・輸送制限に対する強靱化
コールドチェーン強化

スマート農機の活用や調達・
販売のプラットフォーム利用
O2O対応

内食需要対応

FVC全体を通した食の安全担保

全ての栄養素を供給する完全栄養食品

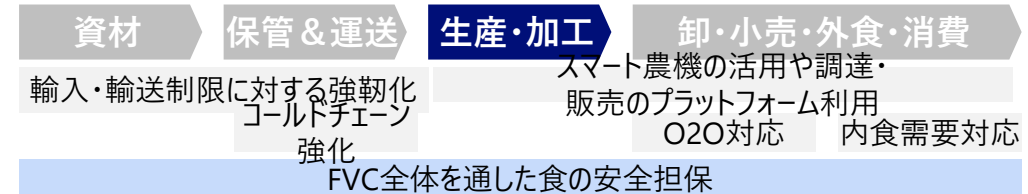
- 食品メーカーが、パッケージフードや加工食品の中でも、日常生活に必要なあらゆる栄養素を含んだ、パッケージフードの開発と提供を行っている

6. 日本が貢献できる領域仮説 6.2 具体的なソリューション例

食品加工において殺菌や異常・異物検知は極めて重要な工程であり、技術が活きる領域

品質・衛生管理高度化/食品加工工場省人化

体質改善 肉体改造

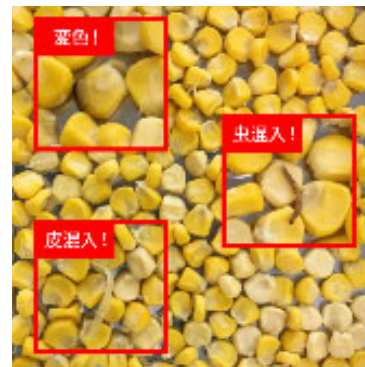


品質を損なわない食品の殺菌・加工

- ・ 超高压（600 MPa 以上）を利用した殺菌
- ・ 熱を使わない殺菌で乳製品、青果加工品などにも利用可

画像認識・AI技術での異常検知

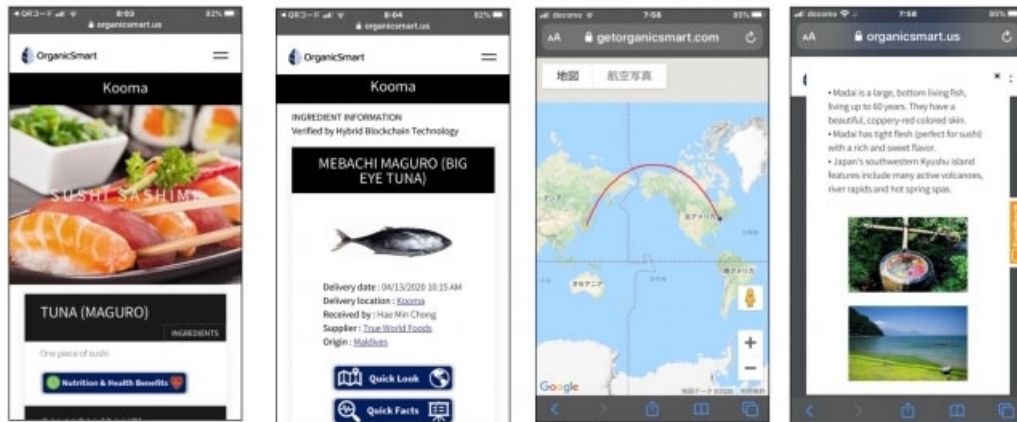
- ・ AIを用いて複雑なパターンも自動判定
- ・ 省人化や検査の効率化・品質平準化が可能に



6. 日本が貢献できる領域仮説 6.2 具体的なソリューション例

ブロックチェーン技術を活用してFVCを通じたデータや情報を消費者に共有するプラットフォーム

トレーサビリティプラットフォーム



体質改善 肉体改造

資材

保管 & 運送

生産・加工

卸・小売・外食・消費

輸入・輸送制限に対する強靱化
コールドチェーン
強化

スマート農機の活用や調達・
販売のプラットフォーム利用
O2O対応 内食需要対応

FVC全体を通じた食の安全担保

ブロックチェーンで検証・承認データの共有

- 食品情報の検証プロセスにより、食の安全性が「見える化」され、消費者は自分が食べるものを評価できるようになる

食品メーカー、小売店、生産者の信頼性向上

- レストラン、小売店、生産者は自社ブランドの信頼性を高め、消費者からの信頼によってリピーターの醸成を通じて収益性を高めることができる

ベトナム

1. はじめに
2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
3. COVID-19により顕在化したFVCの課題
4. 現地FVC 再構築に向けた動向
5. ビジネス機会の方向性仮説
6. 日本が貢献できる領域仮説

7. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告

1. TV会議概要
2. 現地企業・日本企業へのアンケート・マッチング結果
8. 事業構想案

ベトナム

1. はじめに
2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
3. COVID-19により顕在化したFVCの課題
4. 現地FVC 再構築に向けた動向
5. ビジネス機会の方向性仮説
6. 日本が貢献できる領域仮説

7. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告

1. TV会議概要

2. 現地企業・日本企業へのアンケート・マッチング結果
8. 事業構想案

7. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告 7.1 TV会議概要

2021年1月27日に開催されたベトナムのTV会議の概要は次の通り

目的

- ベトナムのフードバリューチェーン（FVC）において、COVID-19が引き起こした課題と変化を把握し、現地・日本企業がこれらに対する解決策・ビジネス機会を検討する一助とすること

日時

- 日時：2021年 1 月27日（水） ベトナム向け： 16：00～17:50（日本時間）

アジェンダ

アジェンダ	概要
開会の挨拶	・ NRIより会議目的、システム機能説明、アジェンダを説明 ・ 農林水産省より開会のご挨拶
NRIからのプレゼンテーション 新型コロナの影響によるベトナムのFVCの再構築 に係る日本企業のビジネスチャンス	・ NRIより下記についてプレゼンテーション; 1. イントロダクション：COVID-19による“ニューノーマル”の創出 2. COVID-19による影響と現状 3. COVID-19による課題と対策 4. ビジネス機会の方向性仮説 シナリオ 5. ビジネス機会の方向性仮説 今後のテーマと日本のソリューション
Q&A	・ 聴衆参加者からの質問に対して、NRIから回答
閉会の挨拶	・ 農林水産省より閉会のご挨拶

7. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告 7.1 TV会議概要

ベトナムのTV会議のスピーチ・議論内容は次の通り

1. 開会の挨拶

農林水産省大臣官房国際部
新興地域グループ長（参事官）
小島裕章氏

- ・ 農林水産省では、株式会社野村総合研究所に業務委託し、新型コロナウイルス感染症により生じたグローバル・フードバリューチェーンへの影響について、分析調査を行っている。ASEANのうち特にベトナムにおける現状や実際に発生している課題、それを通じて日系企業が貢献できる分野を把握し、日ベトナム間での連携可能性を模索する第一歩とするため、同調査結果等を報告する
- ・ ベトナムは長年にわたり、我が国と友好な関係にあり、農林水産業・食品産業においても重要な国の一つ。昨年12月には、ベトナム農業の生産性向上や流通改善などを目的に、5年間の行動計画などを定めた「日越農業協力中長期ビジョン」に署名した。
- ・ 日系企業のベトナムへの進出は年々増加しており、近年は農業関連や食品製造業など企業進出が目立っていると承知しており、我が国としても、今後更に両国関係を発展させていくことが重要
- ・ ベトナムにおける新型コロナウイルス感染症による食市場・物流への影響と今後の見通し、新型コロナウイルス感染症により顕在化したFVCの課題、現地FVC再構築に向けた提案などについて、調査の結果を報告・共有とともに、意見交換の場を設け参加者にとって有益なものとなり、今後の業務や事業展開、新たなビジネス機会の創出、フードバリューチェーンの再構築の一助となることを目指す

2. NRレクチャー

2.1 イントロダクション

-

- ・ COVID-19がもたらす世界経済への影響。ベトナムは成長鈍化するものの、他国よりも早い回復と成長軌道への回帰見込み
- ・ 移動自粛がもたらした行動変容。ロックダウン直後は自宅周辺で過ごしていたが5月後半より回復。小売・娯楽を避ける傾向は続く
- ・ COVID-19によって加速する「政策・経済・社会・技術」におけるメガトレンド
- ・ ベトナムでも衛生管理、ワークフロムホーム、マスク着用の徹底などニューノーマルが発生
- ・ FVCにおいても、ニューノーマルに応じて新たな動きの導入が加速していく想定

2.2 COVID-19による影響と現状

COVID19 の状況

COVID19 における農林水産物への影響（マクロデータからの見解）

- ・ 新規感染者数の拡大を、政府の感染拡大防止策により
- ・ 早期より見事に抑制させた新型コロナウイルス感染対策において優等生の国
- ・ 生産量：COVID-19の影響にも拘わらず、農業部門は前年比を上回る成長率を達成する見込み。豚肉の供給不足は続く
- ・ 消費量：国民の食への安全性意識から国産品の志向傾向へシフト。国内の豚肉価格が継続的上昇。
- ・ 輸入量：国内のアフリカ豚熱（ASF）の発生により豚肉、牛肉などの輸入量が過去最高を記録。COVID-19の影響により、水産加工原料（エビ、ナマズなど）が一時調達困難へ
- ・ 輸出品：ライバル国の輸出品が減少。2020年1月～9月の農林水産品輸出額が305億ドルと前年比1.6%増を達成
- ・ 加工食品、冷凍食品、有機食品の生産と消費：エビやナマズの養殖加工や冷凍製品など需要の高まりから生産量と消費量共に拡大。有機食品の主は有機牛乳などの乳製品が主流
- ・ 小売・レストランの店舗数・売上：外出規制がF&B業界に大打撃。オンラインやデリバリーサービス等へシフトさせ売上を維持
- ・ 包装食品：COVID-19により包装食品、乳製品等が成長。イベント等の減少から飲料の販売量が減少
- ・ 外食サービス：ロックダウンや外出自粛は、主に都心部に出店する高級層向け飲食店に影響拡大
- ・ 消費者マインド：食品デリバリーの利用が広がる。雇用と収入の低下から、低所得者向けに米や現金支援を地方自治体が実施

7. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告 7.1 TV会議概要

ベトナムのTV会議のスピーチ・議論内容は次の通り

2. NRILekチャー 続き

2.2 COVID-19による影響と現状

COVID-19によるFVCへの影響と
顕在課題

- ・ 農業資材：ロックダウンから農業資材業者が営業停止。農業資材の多くを中国からの輸入に頼っていたため、生産に影響が生じた
- ・ 農業生産：「米の禁輸措置」発令による農家への混乱発生。中国との国境閉鎖により、農作物の輸出が激減し国内が供給過剰。また、豚肉需要は高いが生産の回復が遅れている。国境閉鎖、輸出先の規制等により北部、メコンデルタ地域など大きな打撃
- ・ 保管＆運送：船会社の減便の中、輸出が急増しコンテナと輸送機器不足が深刻化。船員や通関業務員の安全対策により入港・通関業務が遅延。輸送料金は高騰。また道路輸送に偏重するリスクが浮き彫り
- ・ 加工：食品加工においては、保存型の加工食品（冷凍食品や缶詰製品）の需要が急増。食材の安全性保証への関心が高まる
- ・ 卸・小売：農家の多くはスマートフォンからFacebook等のオンラインのマーケットプレイスを介し、農作物の販売開始
- ・ 消費：衛生管理の整ったスーパーマーケット等が好まれ始めた。また、農家から直接購入する傾向も高まる

COVID-19における政府・企業・
第3国/国際機関支援策

- ・ COVID-19の危機に対処する農家・サービス・観光産業向け政府による経済刺激策、企業・第3国/国際機関による支援策とその事例

ベトナムにおけるFVC上の顕在課
題

- ・ FVC上で発生している課題および発生可能性のある課題（22課題）

2.3 ビジネス機会の方向性仮説

Key Issuesと投資領域

- ・ FVC上で発生している課題および発生可能性のある22の課題から、大きく3つのKey Issuesを想定
 1. サプライチェーン寸断によるFVC全体での遅延・コスト増加（課題①－⑭等）
 2. 小売・外食の在り方変化に伴う勝者・敗者の明暗化（課題⑯－⑳等）
 3. 安心・安全確保の必須化（課題㉑等）
- ・ ベトナムでは投資領域を「体質改善」と「肉体改造」と把握

2.4 日本企業の技術・ソリューション

投資が進む可能性のあるテーマと
日本が保有する技術・
ソリューション

1. サプライチェーン寸断によるFVC全体での遅延・コスト増加
 - ✓ 「輸入・輸送制限に対する強靱化」
→ EDI管理によるデータ入力省人化、道の駅（直販モデル）、流通プラットフォーム、コールドチェーン
2. 小売・外食の在り方変化に伴う勝者・敗者の明暗化
 - ✓ 「世界品質への向上高付加価値化」、「O2O対応」、「健康食・ミールキットなど新ニーズ対応」
→ EC展開支援ツール、IoT家電＋ミールキット、完全栄養食品
3. 安心・安全確保の必須化
 - ✓ 「自店舗・工場のみならず、FVC全体を通して食の安全を担保」
→ 品質・衛生管理高度化/食品加工工場省人化、トレーサビリティプラットフォーム

2.5 ウェビナー後の進め方

ビジネスマッチングの設定

- ・ 日・ベトナム両国の事業者、政府機関の皆様向けに、実際の事業展開に関わるビジネスマッチングや事業機会の議論の場の設定

7. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告 7.1 TV会議概要

ベトナムのTV会議のスピーチ・議論内容は次の通り

3. Q&A セッション	視聴者からの質問内容	NRIからの回答
投資に関する質問	「ロジスティクス分野へのさらなる投資が求められる」とのご説明がありましたが、その理由について教えてください	- 物流大手であるGLP社のベトナムへの投資の背景から、流通形態の変化、ECの広がりからラストワンマイルによる倉庫や車両需要が増えている - パッケージフード、冷凍食品等の需要増、食の西洋化などのトレンドに伴って日本のコールドチェーンの技術、コールドチェーンネットワークの需要は昔からの流れもあり今後も拡大する見込み - 短期的な需要変化へのレジリエンスとして、輸出入の需要変化に伴った対応としての倉庫の余剰対応が必要となってくる
DXに関する質問 (P.11)	ニューノーマルに向けて取り組むべき「DX」とは何か教えてください	COVID-19が加速化させるメガトレンドの一つであるデジタル化を意味しており、オンラインショッピングやフードデリバリー、オンラインの決済サービス等が例として挙げられる
ベトナムとタイの類似点・相違点に関する質問	COVID-19の影響におけるベトナムとタイのFVC上の類似点、国の特徴による相違点など教えてください	- ベトナムとタイの課題において約8割は同種の課題 - タイと異なることは、農業生産周りが異なっている。タイの方が労働者不足が深刻化している状況から、農業生産～食品加工の省人化の領域が加速すると予測している
食肉加工食品の輸出に関する質問	ベトナムの食肉加工食品は伸びているのか教えてください	食肉加工食品の輸出量は伸びていると推測されるが、詳細な内訳は別途調査

4. 閉会の挨拶

農林水産省大臣官房国際部
新興地域グループ国際交渉官
(東南アジア担当)
北田裕道氏

- ベトナムの農林水産業・食品産業分野における新型コロナウイルス感染症の状況と影響、それにより顕在化した課題と対応例について、詳細に報告させて頂いた
- ポストコロナにおける今後のシナリオや日本が貢献できる領域について、野村総合研究所から仮説を提示させていただき、その後活発な意見交換を行うことができた
- 一概に本日報告した内容が、ベトナムにおける事業展開やフードバリューチェーンの再構築のために必ずしもそのまま適用できるものではないと思うが、一つの考え方として、有益な情報を提供できたと思う
- 当省としても、引き続きフードバリューチェーンの構築や海外展開、輸出促進に向けて後押しができるよう、努力する次第である

ベトナム

1. はじめに
2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
3. COVID-19により顕在化したFVCの課題
4. 現地FVC 再構築に向けた動向
5. ビジネス機会の方向性仮説
6. 日本が貢献できる領域仮説

7. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告

1. TV会議概要

2. 現地企業・日本企業へのアンケート・マッチング結果

8. 事業構想案

7. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告 7.2 現地企業・日本企業へのアンケート結果

日本企業へのアンケート調査の結果、計11社がベトナムでのビジネスを検討、又は実施・拡張中と回答
また、現地企業とのマッチングでは、農業生産、食品加工、卸・小売り分野が最も高い関心と言える

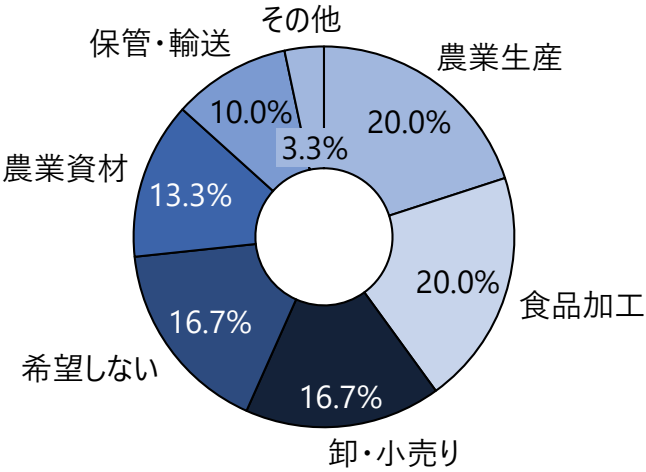
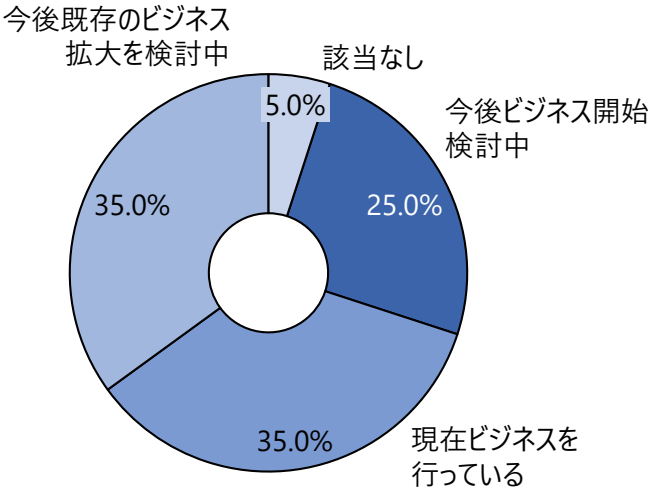
(n=11社)

ベトナムでのビジネス展望の可能性(複数回答)

企業紹介を希望する分野(複数回答)

関心の高いテーマ (複数回答、トップ5)

日本企業



テーマ	票数
マーケティング戦略、販売チャネル戦略	11
現地企業とのパートナーシップの形成・役割分担	10
顧客情報、営業情報管理の実施・強化	5
現地企業の買収	4
生産管理の強化、品質担保、品質向上	3
IoT・AIの活用（スマートファクトリー、スマートリテールなど）	3

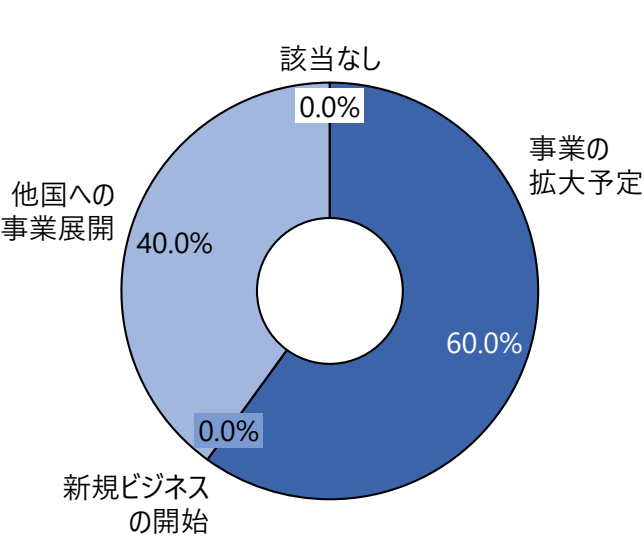
7. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告 7.2 現地企業・日本企業へのアンケート結果

ベトナム企業へのアンケート調査の結果、事業の拡大・他国への展開が最も高い
また、マッチング内容では、マーケティング戦略、販売チャネル戦略が最も関心の高いテーマと言える

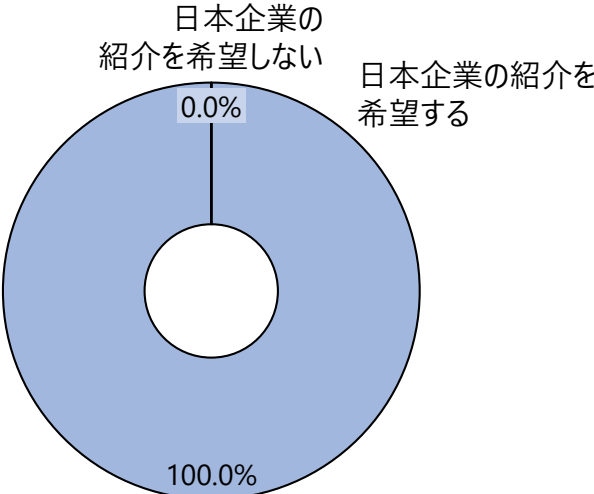
(n=3社)

ビジネス展望の可能性(複数回答)

ベトナム企業



企業紹介を希望する分野(複数回答)



関心の高いテーマ (複数回答、トップ5)

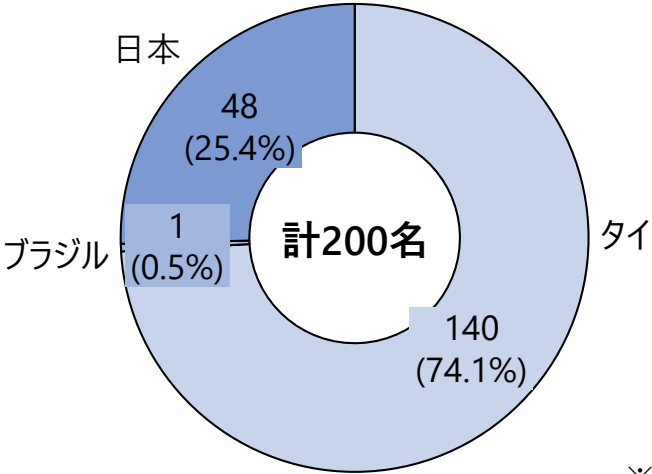
テーマ	票数
マーケティング戦略、販売チャネル戦略	3
外国企業とのパートナーシップ	2
コスト・在庫削減、納期短縮など、事業オペレーションの最適化	2
自組織のビジョン・ミッション・バリューの共有および浸透	1
後継者、ローカルリーダー育成	1
海外輸出における協力希望	1

7. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告 7.2 現地企業・日本企業へのアンケート結果

参考）視聴者の参加者実績

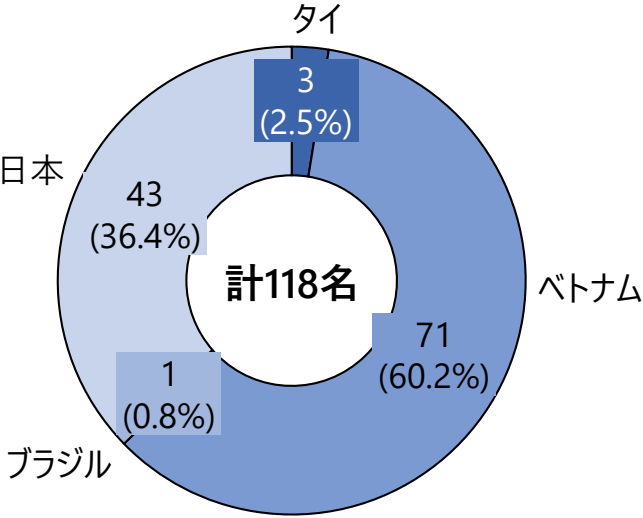
視聴者参加人数

タイ



※スピーカー登録は除く

ベトナム



※スピーカー登録は除く

参考）事前登録者数

	人数
政府系関係者	53名
現地企業・団体	32名
日本企業	39名
計	124名

	人数
政府系関係者	9名
現地企業・団体	39名
日本企業	56名
計	104名

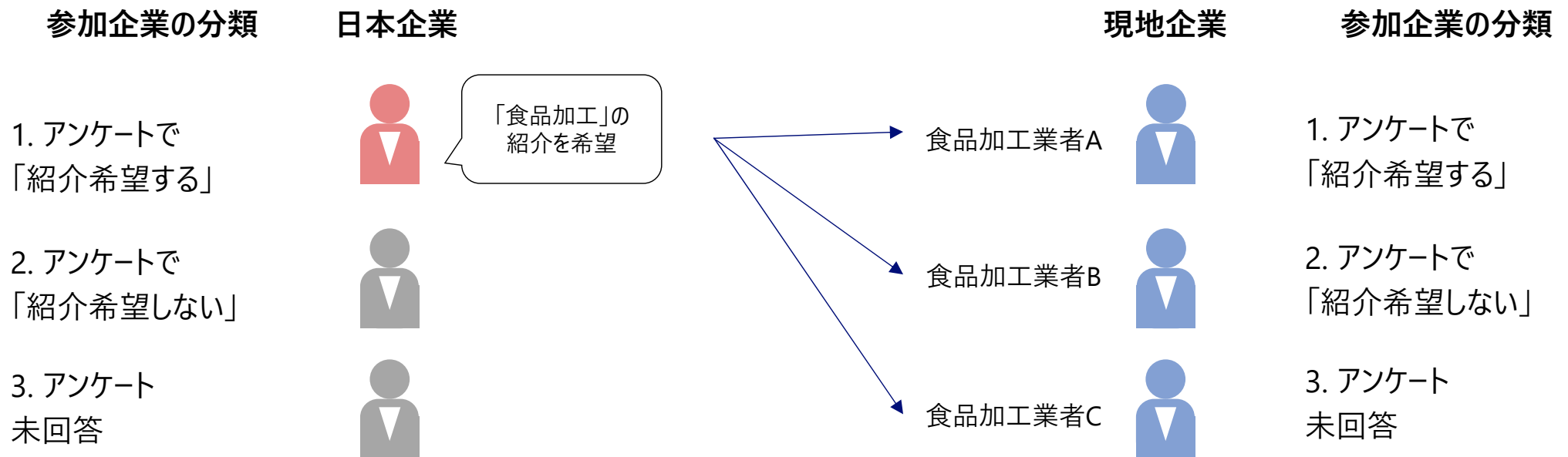
7. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告 7.3 マッチング基本方針

マッチングを希望する両国の企業に対して、希望する業種と要件内容から相手国の参加企業の中から条件に合致する企業を抽出。相手国企業から連絡先の開示許可を頂いたのち共有し、個別議論頂く

■ マッチング基本方針

企業が紹介を希望する業種と希望する要件を参照の上、相手国の参加企業の中から条件に合致する企業を探す。条件に合致する企業がいれば、相手国企業の紹介文と連絡先を、紹介を希望する企業へ送る。その後のやり取りは企業同士で行う。

例) 日本企業が現地企業の紹介を希望する場合（現地企業→日本企業の場合も同様）



ベトナム

1. はじめに
2. COVID-19 による食市場・物流への影響と今後の見通し
3. COVID-19により顕在化したFVCの課題
4. 現地FVC 再構築に向けた動向
5. ビジネス機会の方向性仮説
6. 日本が貢献できる領域仮説
7. FVC再構築検討のためのTV会議開催・結果報告

8. 事業構想案

8. 事業構想案 8.1 アンケート結果から見られる現地企業の課題・ニーズ

アンケート調査から、ベトナムの非乳製品加工企業が日本企業とのビジネスマッチングを希望
インタビューを実施し、以下3つの課題とニーズを把握

現地企業の課題・ニーズ概要

項目	内容
対象企業	非乳製品加工企業
業種	植物由来の栄養製品の製造・販売
現地企業 課題・ニーズ	< 1. 第3国展開に向けた協業 > - 国内の市場シェア約83%を占め、更なる事業拡大には他国への展開が必須 ⇒ニーズ：事業安定化・拡大のためにも第3国展開を進展させたい。既存商品の品質改良 < 2. 事業の拡大を目指した商品の改良、または新商品の開発 > - 飲料用非乳製品のみと限られ、更なる収益拡大には新たな製品が必要 - パッケージ飲料として流通させるだけでなく、レストランなど外食や小売などB2Bで流通させたい - 高齢者などへの栄養補給など機能性を向上させ製品の高付加価値化を図りたい ⇒ニーズ：新商材の展開による自国内でのレベニュー拡大 < 3. 製品の安心安全加工処理機器の更新、食品廃棄物の軽減技術 > - 現在、3カ所ある生産拠点の1カ所にスイス製の豆乳製造機器を導入。他2拠点に対しても機器の更新が必要と考えており日本の技術に関心がある。 - また、食品加工工程から発生する食品廃棄物の軽減される技術や再利用方法などに関心がある。 ⇒ニーズ：製品の安心安全加工処理機器、食品廃棄物の軽減技術

8. 事業構想案 8.2 食品加工会社を起点とした事業（日・越の協業）構想案

「事業①第3国展開に向けた協業」において、日本の食品加工メーカー・卸が現地食品加工会社へ出資・事業支援を行い新製品開発を行う。また日本側は、代理販売・共同開発などが想定される

事業① 第3国展開に向けた協業

背景

【ベトナム側のニーズ】

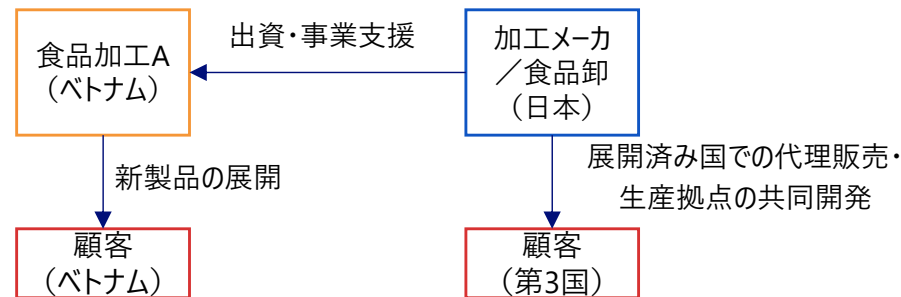
- ・ 事業安定化・拡大のためにも第3国展開を進展させたい
- ・ 既存商品の品質改良

【日本側の提供可能技術等】

- ・ グローバルネットワーク
- ・ 他国での事業実績（含. 日本でのオフテーク）

協業 パターン・ス キーム

【パターンA】日本企業による現地企業への出資



想定課題 と 政策支援

【想定課題】

- ✓ 両社のニーズがマッチする（シナジー創出が期待される）企業が見つからない
- ✓ M&Aに関わるコスト負担の軽減

【政策支援】

- ✓ 上記の仮説を元にしたビジネスマッチングの実施
- ✓ M&Aにかかわるリスクマネーや一部費用補助

8. 事業構想案 8.2 食品加工会社を起点とした事業（日・越の協業）構想案

「事業②安全・健康志向起点の新商品開発」において、食の安全・安心技術を保有する日本の食品加工企業・研究機関・スタートアップ等がベトナム企業と共同で製品開発を行う形態が想定される

事業② 安全・健康志向起点の新商品開発

背景

【ベトナム側のニーズ】

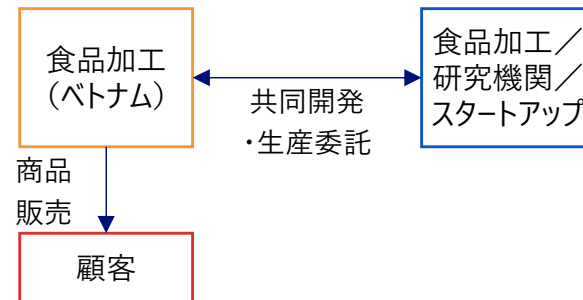
- ・ 新商材の展開による自国内でのレベニュー拡大

【日本側の提供可能技術等】

- ・ 食品加工会社のもつ日本ブランド製品
- ・ タンパク質の取り扱いやその他食品加工関連の基礎研究実績

協業 パターン・ スキーム

【パターンB】共同R&D



(ベトナム)

(日本)

想定課題 と 政策支援

【想定課題】

- ✓ 両社のニーズがマッチする（シナジー創出が期待される）企業が見つからない
- ✓ M&Aに関わるコスト負担の軽減

【政策支援】

- ✓ 上記の仮説を元にしたビジネスマッチングの実施
- ✓ M&Aにかかわるリスクマネーや一部費用補助

8. 事業構想案 8.2 食品加工会社を起点とした事業（日・越の協業）構想案

「事業③安全加工技術の提供」において、日本の食品加工機器メーカーによる安心安全の加工処理技術、食品廃棄物の軽減技術などのノウハウ提供や機械などの販売が想定される

事業③ 安全加工技術の提供

背景

【ベトナム側のニーズ】

- ・ 機器の更新が必要と考えており、日本の技術に関心がある。

【日本側の提供可能技術等】

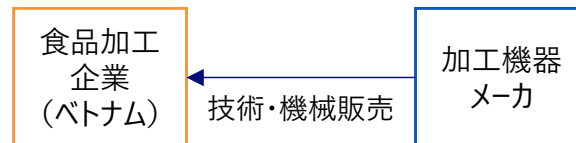
- ・ 低温殺菌関連技術・機器、非乳製品加工機器、食品廃棄物の軽減技術など

協業 パターン・ スキーム

【パターンC】加工技術の販売

(ベトナム)

(日本)



想定課題 と 政策支援

【想定課題】

- ✓ 中小の研究機関や加工メーカ、スタートアップ等は現地企業へのコンタクトが難しい

【政策支援】

- ✓ 上記の仮説を元にしたビジネスマッチングの実施

The text is framed by two decorative swooshes. The top swoosh is a thick, curved line that starts in blue on the left, transitions through purple and pink in the middle, and ends in orange on the right. The bottom swoosh is a thick, curved blue line that starts on the left and tapers off to the right.

Share the Next Values!